

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	アジア史						
担当教員	郭 暁博					科目ナンバ-	Z52290
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	中国とその周縁の歴史を概説する。						
授業の概要	アジア地域の古代文化の成り立ちからペルシア、インド文化への展開を概括する。その後、古代から近現代にいたる中国や中華世界の周縁に位置した日本、朝鮮、ベトナムから見た中国像はいかなるものであったか、また中国の社会と文化を検討する。東アジアと日本の交流の歴史を時系列に学ぶ。						
到達目標	①中国を中心とした東アジアの歴史を学び、東アジアにおける日本の立場を再認識できる。【知識・理解】 ②アジアにおける大きな歴史の出来事について、時系列で記述することができる。【知識・理解】 ③学習した授業内容をもとに、レポートを作成することができる。【汎用的技能】 ④アジアの国々への興味関心をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 漢字世界の拡大と中華意識 第2回 『日本書紀』が成り立たせる「中国」 第3回 中華世界の変貌 第4回 朝鮮史から見た明清中国 第5回 ベトナム史から見た中国近現代 第6回 中国史にみる周辺化の契機と展開 第7回 ベトナム史と中国史 第8回 東アジア冊封体制と複数の中華 第9回 儒教とその真理性 第10回 都市と農村 第11回 女性史の観点 第12回 華僑 華人 第13回 環境と治水の歴史 第14回 中国史の読み方 第15回 今までのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容を事前に予習し、事前に指定するキーワードについて、下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。その上、自分の最も興味関心のところを調べて、知見をより深める。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式で、映像や画像などを用いながら進めていく。ほぼ毎回授業内容に沿ったレジュメを配布する。指定したテーマに対し、グループまたはペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物30%、期末レポート70% 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）の内容・記述の的確さ等の評価する。到達目標①、②、④に関する到達度の確認 期末レポート：授業で扱ったアジア史に対する理解度、アジア史に対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標①、②、③、④に関する到達度の確認 フィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業で紹介・解説する。期末レポートのフィードバックを松蔭manabaを通して行う。						
履修上の注意	1. 歴史や東アジアの情勢などに興味を持って臨むことを期待する。 2. 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。 3. 授業中に、他の受講者の迷惑になるような行為を起こす場合、途中退室を求める。（欠席扱いとする） 遅刻、早退、携帯いじり、居眠り、私語は各－1点						

履修上の注意	4. レポートの提出期限と提出方法をきちんと守ること。 5. 授業評価に関する情報などは授業中または松蔭manabaにてご確認。
教科書	特に指定なし。プリントを配布する。
参考書	宮崎市定『アジア史概説』中公文庫、ISBN : 978-4122014015 濱下武志、平勢隆郎『中国の歴史』有斐閣、ISBN:978-4641121911

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	映像と大衆文化／比較文化IIA						
担当教員	西岡 恒男					科目ナンバ-	A32030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	上方漫才の歴史と1980年代のテレビにおける大衆文化						
授業の概要	<p>本講義では、1980年代の日本の映像文化を考察する。今回は、上方（大阪／関西）を中心とした漫才の歴史と文化を概観したい。</p> <p>漫才は、もとは「万歳」と呼ばれる日本の民俗芸能だったが、明治末期から大正・昭和期にかけて現在の形へと発達し、戦後はテレビの普及とともにもっとも身近な大衆文化に成長した。さらに、テレビではかつて「演芸番組」があったが、現在は「M-1」をはじめとする「ネタ番組」へと変化している。</p> <p>実際、漫才のネタやリズムなどは、とくに1980年代のテレビ文化・若者文化のなかで大きく変わってきたように思われる。その端緒は、1980年に起こった「漫才ブーム」にある。事実、私たちがよく知るテレビタレントは、この1980年代に登場・活躍した人物（ビートたけしからダウンタウンまで）や、その影響を受けてきた人々だ。そこで、現在の日常生活で親しんでいるテレビ文化を深く掘り下げ、漫才の歴史や変遷をみながら、その時代背景や社会の影響を理解することを目標とする。</p> <p>また、そもそも「笑い」とはどういうものか。その仕組みについても、古典的なベルクソンの議論などを中心に解説する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上方漫才の歴史を通じて、現在にまで影響をもつ1980年代のテレビ文化・大衆文化を知ることができる。【知識・理解】</li> <li>2. 「笑い」のメカニズムについて知ることができる。【知識・理解】</li> <li>3. 現在の日常生活で親しんでいるテレビ文化を深く掘り下げ、その時代背景を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 「万歳」から「漫才」へ：その起源</p> <p>第2回 漫才の確立：初期のスタイル</p> <p>第3回 戦前・戦後期の上方漫才</p> <p>第4回 戦後上方漫才界を代表するスター：いとし・こいし／ダイマル・ラケット</p> <p>第5回 松竹芸能から吉本興業へ：横山やすし・西川きよしの活躍</p> <p>第6回 1980年（1）：テレビ文化と戦後日本社会の転換点</p> <p>第7回 1980年（2）：「漫才ブーム」の到来とその影響</p> <p>第8回 1980年（3）：漫才ブームを彩る漫才師たち</p> <p>第9回 漫才師からテレビスターへ：ビートたけし</p> <p>第10回 1980年代テレビ論（1）：「お笑いBIG3」：タモリ</p> <p>第11回 1980年代テレビ論（2）：「トレンドイタレント」：明石家さんま</p> <p>第12回 1980年代テレビ論（3）：「アイドル漫才師」：とんねるず</p> <p>第13回 1980年代テレビ論（4）：「フリートークの漫才」：笑福亭鶴瓶・上岡龍太郎</p> <p>第14回 ダウンタウンの登場</p> <p>第15回 【まとめ】1990～2000年代のお笑いへ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回講義前に資料を熟読しておくこと。資料は配布するか、松蔭manabaにアップする（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：松蔭manabaを活用したフィードバック学習に取り組むこと。古典的な漫才や最新の漫才などについて、インターネットを活用して知識を増やすこと（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	テレビ文化についての講義、毎回リアクションペーパーを要求する。また、松蔭manabaでのフィードバック学習について、授業内で小テストを設ける。						
評価基準と評価方法	<p>リアクションペーパー 30%、松蔭manaba 30%、レポート 40%</p> <p>リアクションペーパーでは授業内容の理解度をチェックする。また、リアクションペーパーに書かれたコメント・質問については翌週の授業内で解説する。</p>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前後半の授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位認定を行わない。</li> <li>2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。</li> <li>3. レポート未提出者は原則単位認定を認めない。</li> <li>4. レポート提出についての詳細は授業内で説明する。</li> </ol>						
教科書	教科書はないが、毎回プリントを配布するのでこれを教科書代わりとする。						
参考書	<p>戸田学『上方漫才黄金時代』、岩波書店、2016、ISBN：978-4-00-061130-5</p> <p>アンリ・ベルクソン『笑い』、増田靖彦訳、光文社古典新訳文庫、2016、ISBN：978-4334753337</p> <p>大塚英志『「おたく」の精神史 一九八〇年代論』、星海社新書、2016、ISBN：978-4-06-138579-5</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	海外インターンシップA						
担当教員	単位認定者：池谷 知子					科目ナンバ-	Z5138A
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～4	単位数	1.0
授業のテーマ	国外で将来のキャリアに関連した就業体験を行い、グローバルなビジネスの実態を知ることにより社会で働くことの意義を考える						
授業の概要	実習先国の歴史や文化、産業や経済情勢などを学びながら日本との違いを理解していく。海外における就業の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で体験実習（インターンシップ）を行なう。事前学習では実習先国の歴史的・文化的背景についての講義、語学学習、海外における危機管理、ビジネスマナーについてなど、海外インターンシップに必要な知識を身に付ける。これらの経験を通して、日本における企業体験とは異なる点などを認識し、グローバルビジネスの基礎的な経験を将来のキャリア形成のための一歩として位置付けることを目的とする。						
到達目標	①インターンシップを通じて、自分に適した職業は何か、将来の自己のキャリア形成を考える。【知識・理解】 ②異文化理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができる。【汎用的技能】 ③グローバル社会で働くことの意義とその働き方について考えることができる。【知識・理解】 ④社会人基礎力の必要性を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	【事前学習】 1. 実習先国の事業内容の確認 2. 海外と日本のビジネススタイルの違いについて学ぶ 3. 実習に必要な言語を学ぶ 4. 異文化におけるコミュニケーションについて学ぶ 5. 海外における危機管理について意識を高める。 【夏休み期間中実習】 6. 現地説明 7. フィールドワーク 8. フィールドワーク 9. フィールドワーク 10. フィールドワーク 11. フィールドワーク 12. フィールドワーク 13. プレゼンテーション・報告会 【事後学習】 14. 実習報告書のまとめ方 15. 実習報告：プレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①ピア学習室等での実習先国言語の自主学習 ②ウェブサイト、新聞、ガイドブックなどで実習先国についての情報を集め、実習先国の知識を得る。						
授業方法	集中講義（事前学習、海外での実習、事後学習）						
評価基準と評価方法	実習態度、実習先での評価などの総合評価（60%） 事前・事後レポート（20%）、発表（20%）						
履修上の注意	①事前・事後学習に必ず参加すること。 ②参加申込書、誓約書を提出すること。 ③申込み、参加に際し、保証人の同意を得られること。 ④心身共に、健康上の問題のないこと。 ⑤実習中は実習先の指導に従うこと。 ⑥実習に伴う交通費などは自己負担する。						
教科書	プリント配布						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	海外インターンシップA						
担当教員	単位認定者：池谷 知子					科目ナンバ-	Z5138A
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～4	単位数	1.0
授業のテーマ	国外で将来のキャリアに関連した就業体験を行い、グローバルなビジネスの実態を知ることにより社会で働くことの意義を考える						
授業の概要	実習先国の歴史や文化、産業や経済情勢などを学びながら日本との違いを理解していく。海外における就業の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で体験実習（インターンシップ）を行なう。事前学習では実習先国の歴史的・文化的背景についての講義、語学学習、海外における危機管理、ビジネスマナーについてなど、海外インターンシップに必要な知識を身に付ける。これらの経験を通して、日本における企業体験とは異なる点などを認識し、グローバルビジネスの基礎的な経験を将来のキャリア形成のための一歩として位置付けることを目的とする。						
到達目標	①インターンシップを通じて、自分に適した職業は何か、将来の自己のキャリア形成を考える。【知識・理解】 ②異文化理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができる。【汎用的技能】 ③グローバル社会で働くことの意義とその働き方について考えることができる。【知識・理解】 ④社会人基礎力の必要性を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	【事前学習】 1. 実習先国の事業内容の確認 2. 海外と日本のビジネススタイルの違いについて学ぶ 3. 実習に必要な言語を学ぶ 4. 異文化におけるコミュニケーションについて学ぶ 5. 海外における危機管理について意識を高める。 【春休み期間中実習】 6. 現地説明 7. フィールドワーク 8. フィールドワーク 9. フィールドワーク 10. フィールドワーク 11. フィールドワーク 12. フィールドワーク 13. プレゼンテーション・報告会 【事後学習】 14. 実習報告書のまとめ方 15. 実習報告：プレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①ピア学習室等での実習先国言語の自主学習 ②ウェブサイト、新聞、ガイドブックなどで実習先国についての情報を集め、実習先国の知識を得る。						
授業方法	集中講義（事前学習、海外での実習、事後学習）						
評価基準と評価方法	実習態度、実習先での評価などの総合評価（60%） 事前・事後レポート（20%）、発表（20%）						
履修上の注意	①事前・事後学習に必ず参加すること。 ②参加申込書、誓約書を提出すること。 ③申込み、参加に際し、保証人の同意を得られること。 ④心身共に、健康上の問題のないこと。 ⑤実習中は実習先の指導に従うこと。 ⑥実習に伴う交通費などは自己負担する。						
教科書	プリント配布						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	海外インターンシップB						
担当教員	単位認定者：古川 典代					科目ナンバ-	Z5138B
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～4	単位数	2.0
授業のテーマ	本学卒業生が中国深センにて起業した可宝得環境技術有限公司において、ビジネスインターンシップを行う。日本語と中国語を駆使してビジネスの実態を知るとともに、海外企業ならではのグローバルなビジネス体験をする。						
授業の概要	海外（中国）の歴史や文化、産業や経済情勢などを学びながら日本との違いを理解していく。海外における就業の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で体験実習（インターンシップ）を行なう。事前学習では実習先（海外）の歴史的・文化的背景についての講義、語学学習、海外における危機管理、ビジネスマナーについてなど、海外インターンシップに必要な知識を身に付ける。これらの経験を通して、日本における企業体験とは異なる点などを認識し、グローバルビジネスの基礎的な経験を将来のキャリア形成のための一歩として位置付けることを目的とする。						
到達目標	①インターンシップを通じて、自分に適した職業は何か、将来の自己のキャリア形成を考える。【知識・理解】 ②異文化理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができる。【汎用的技能】 ③グローバル社会で働くことの意義とその働き方について考えることができる。【知識・理解】 ④社会人基礎力の必要性を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	<b>【事前学習】</b> 1. 実習先の企業・事業内容の確認 2. 中国と日本のビジネススタイルの違いについて学ぶ 3. 実習に必要な中国語を学ぶ 4. 異文化におけるコミュニケーションについて学ぶ 5. 海外における危機管理について意識を高める。 <b>【春休み期間中実習】</b> 14日間、66時間以上の実習 6. 現地本社での実習 7. 現地本社での実習 8. 現地本社での実習 9. 現地本社での実習 10. 代理店での実習 11. 代理店での実習 12. 代理店での実習 13. 現地本社での実習報告会 <b>【事後学習】</b> 14. 実習報告書のまとめ方 15. 実習報告：プレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①ピア学習室等での中国語自主学習 ②ウェブサイト、新聞、ガイドブックなどで中国についての情報を集め、中国についての知識を得る。						
授業方法	集中講義（事前学習、中国での実習、事後学習） <b>【実務経験のある教員等による授業】</b> 中国深圳の企業において、現地スタッフの指導のもと、日本語と中国語を駆使したグローバルビジネスの就業体験を行う。						
評価基準と評価方法	実習態度、研修先での評価などの総合評価（60%） 事前・事後レポート（20%）、発表（20%）						
履修上の注意	①中国語履修者で実践中国語副専攻科目を受講していること ②事前・事後学習に必ず参加すること。 ③参加申込書、誓約書を提出すること。 ④申込み、参加に際し、保証人の同意を得られること。 ⑤心身共に、健康上の問題のないこと。 ⑥実習中は実習先の指導に従うこと。 ⑦実習に伴う交通費などは自己負担する。						
教科書	プリント配布						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	感情・人格心理学／人格心理学						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	感情と人格について心理学の視点からその働きを学ぶ						
授業の概要	感情と人格について、その概念や心理学的な理解のあり方を学ぶ。感情はどのように生じてきて、それが日常生活のあり方にどのように影響するのか、人格はどのような過程を経て形成されるのか、人格の働きが対人関係や日常生活のあり方にどのように関係しているかを学ぶ。						
到達目標	(1) 感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。【知識・理解】 (2) 感情が行動に及ぼす影響について概説できる。【知識・理解】 (3) 人格の概念及び形成過程について概説できる。【知識・理解】 (4) 人格の類型、特性等について概説できる。【知識・理解】 (5) 感情や人格のアセスメントの方法を理解している。【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション：感情と人格について学ぶことの意義について 2. 感情の基礎理論 3. 感情と身体の関係 4. 感情と行動の相互関係(1)：促進的影響 5. 感情と行動の相互関係(2)：抑制的影響 6. 感情と日常生活への不適応 7. 感情のアセスメント 8. 人格とは何か 9. 人格の形成過程 10. 人格の理解(1)：類型論 11. 人格の理解(2)：特性論 12. 人格の理解(3)：力動論 13. 人格と日常生活への不適応 14. 人格のアセスメント 15. 授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には各回の授業テーマについて関連する文献に目を通しておくこと（2時間）。 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること（2時間）。						
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度30%、期末試験70% 授業態度：授業に取り組む姿勢、授業内の発言、ディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度、適宜提出を求めるリアクションペーパーの記述内容的確さ等を評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 期末試験：授業を通じた感情心理学、人格心理学についての理解度を評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：リアクションペーパーの記述、質問等について、翌週に説明、解説を行う。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	学習・言語心理学A／学習心理学						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P1203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	学習に関わる心の仕組み						
授業の概要	学習とは、経験を通して行動や知識が変化することを指します。私たちは環境に適応するために学習をします。たとえば、危険を察知して逃げるための情報、学校等で獲得するさまざまな知識、他者とうまくやっていくためのふるまい方や行動等の獲得も学習を通じて行われます。講義では、このよう学習を可能にする心の仕組みについて解説します。						
到達目標	1) 人が学ぶ過程を理解することができる【知識・理解】 2) ①人の行動が変化する過程が理解できるようになる【知識・理解】 3) 日常の様々な学習場面を理論と照らし合わせて考えられるようになる【知識・理解】 ①は公認心理師カリキュラムにおける大項目						
授業計画	1. 学習心理学とは 2. 古典的条件付け1 3. 古典的条件付け2 4. オペラント条件付け1 5. オペラント条件付け2 6. 学習によらない行動変化：生得的反応 7. 知識獲得のメカニズム：記憶1 8. 知識獲得のメカニズム：記憶2 9. 学習意欲1 10. 学習意欲2 11. 心理臨床と学習心理学 12. 学習指導と学習心理学 13. 学習障害と学習心理学 14. まとめと試験 15. 試験のおさらい						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書をしっかり読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（2時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。						
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。						
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点されます） 5回の欠席で、受講資格を失います。 * 欠席回数とは自分で把握しておきましょう。欠席数に関する問い合わせは原則受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	太田信夫・中條和光(2019)学習心理学. 北大路書房. ISBN-10: 4762830488						
参考書							



科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養演習I／（幸せに生きるための倫理学）						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ-	752360
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生が身につけるべき教養として必読と言われる著書を読み、その内容を把握する。同時に、それを題材として人が幸せに生きる方法について考える。						
授業の概要	教養は何のためにあるのでしょうか。なぜ大学で教養を身につける必要があるのでしょうか。それは誰かに知識をひけらかすためではないし、自分の価値を高めるためでもありません。教養は人が幸せになるためにあるのです。この演習では、幸せに生きるための教養を身につける方法を講師とともに学んでいきます。						
到達目標	(1) 著名な文学作品や哲学書を読むことで、教養を高める。【知識・理解】 (2) 幸せとは何かを具体的な事例に則して考えることができる。【態度・志向性】 (3) 自らの考えを美しい文章で表現する方法を習得する。【汎用的技能】 (4) 社会、文化、自然等に関わる幅広い教養を身につけている。【知識・理解】						
授業計画	第1回 夏目漱石『草枕』人生の目的 第2回 夏目漱石『こころ』心の傷を癒す方法 第3回 夏目漱石『それから』なぜ人は働くのか 第4回 太宰治『人間失格』絶望から立ち直る方法 第5回 太宰治『走れメロス』親友とはどういう友か 第6回 三島由紀夫『仮面の告白』ナルシストになってもいい？ 第7回 三島由紀夫『春の雪』（1）理想の恋愛は人を幸せにするか 第8回 三島由紀夫『春の雪』（2）美を追究することで幸せになれるか 第9回 遠藤周作『深い河』生まれ変わりを信じる？ 第10回 三浦綾子『塩狩峠』自己犠牲は人を幸せにするか 第11回 三浦綾子『道ありき』男性の幸せと女性の幸せ 第12回 トルストイ『クロイツェル・ソナタ』禁欲主義者は幸せになれるか 第13回 サン・テグジュペリ『星の王子さま』子どもの心で幸せになる 第14回 西田幾多郎『善の研究』座禅と瞑想で幸せになる 第15回 ニーチェ『ツアラトウストラかく語りき』生きる喜びに満たされる						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内で紹介した文献に目を通し、分からない語句の意味を調べ、全体の内容を把握する（学習時間：4時間/週）。						
授業方法	演習であるが、担当の学生が前に出て発表するという形式ではなく、講師が選んできた文学作品などを読み、映像資料を見たり、講師の解説を聴いたあとで、受講生の考えを文章にしていくという方法を探る。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート：75%（5点×15回＝75点） 期末のレポート：25%						
履修上の注意	文学に関心のある人、人間の生き方について考えてみたい人、文章力を磨きたい人などを対象とした演習です。毎回、文学作品を読んで、課題について論述する演習なので、活字を読むのが苦手、文章を書くのが苦手という人にはお勧めできません。						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。ただし、レポート作成のために、紹介した本を文庫（1000円以下）で買ってもらうことがあるかもしれません。詳細は、授業の中で説明します。						
参考書	授業の中で紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての音楽／音楽入門						
担当教員	大西 隆弘					科目ナンバ-	Z51050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を探る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、クラシック音楽が広く普及しているとは言えない。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるだろう。ではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのであろうか。問題はそれほど単純ではない。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも「聴く能力」が要求されているからである。毎回の授業で様々な名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていく。						
到達目標	(1) 様々な作曲家の音楽について理解できる。【知識・理解】 (2) クラシック音楽の価値を正しく理解できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 バロックの音楽 第3回 古典派の音楽 (1) : ハイドン 第4回 古典派の音楽 (2) : モーツァルト 第5回 古典派からロマン派へ (1) : ベートーヴェン 第6回 古典派からロマン派へ (2) : シューベルト 第7回 ロマン派の音楽 (1) : シューマン 第8回 ロマン派の音楽 (2) : ショパン 第9回 ロマン派の音楽 (3) : リスト 第10回 ロマン派の音楽 (4) : ブラームス 第11回 ロシアの音楽 (1) : チャイコフスキー 第12回 ロシアの音楽 (2) : ラフマニノフ 第13回 フランスの音楽 (1) : ドビュッシー 第14回 フランスの音楽 (2) : ラヴェル 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前の準備学習：各回の授業に関するレジュメをその前週に授業で配布し、そこで指定するキーワードについて参考文献等で下調べをする。(学習時間2時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また授業で一部分しか聴けなかった楽曲について全曲をCD等で鑑賞する。(学習時間2時間)						
授業方法	講義：題材とする楽曲を鑑賞し、準備学習の内容をふまえて重要事項についての解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート75% (5点×15回)：各回の授業内容についての記述的的確性を評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 期末のレポート25%：クラシック音楽に対する理解度、またそれを鑑賞することへの自らの興味・関心の明確性・具体性を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	音楽を鑑賞するときは、必ず静粛でなければならない。毎回集中して鑑賞すること。						
教科書	教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。						
参考書	必要な場合、適宜指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての美術／美術入門						
担当教員	宮地 佳代					科目ナンバ-	251060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拓け、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画 (1) 形態と機能 第4回 日本画 (2) 表現 第5回 遠近法 第6回 視覚の変貌 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画 (1) 版画の特性 第11回 版画 (2) 凸版／孔版 第12回 版画 (3) 凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・日頃から美術作品(美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等)をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。 ・次回授業のキーワード、美術用語(授業内で提示)についての下調べ(90分)。 ・授業で取り上げた作家、作品、技法等の確認と発展(90分)。 ・別途レポート(欠席等による課題レポートを補う)：詳細については授業内で説明する。						
授業方法	講義。 スライド、映像資料などを用いて授業を進める。 毎回、授業内容に沿って設けたテーマについての課題レポートを実施。						
評価基準と評価方法	課題レポート60%：授業内で実施。 レポートテーマは、毎回授業内容によって異なる。 記入内容がテーマに沿っているか、また授業内容の理解と到達目標に関する到達度を確認する。 同レポートに関する個々への評価・質問等へのコメントは、レポート返却にて行う。  期末レポート40%：到達目標の確認。						
履修上の注意	1. 五回以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。 2. 授業の進行状況によっては、授業内容を変更する場合があります。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての美術／美術入門						
担当教員	宮地 佳代					科目ナンバ-	251060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拡げ、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画 (1) 形態と機能 第4回 日本画 (2) 表現 第5回 遠近法 第6回 視覚の変貌 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画 (1) 版画の特性 第11回 版画 (2) 凸版／孔版 第12回 版画 (3) 凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・日頃から美術作品(美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等)をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。 ・次回授業のキーワード、美術用語(授業内で提示)についての下調べ(90分)。 ・授業で取り上げた作家、作品、技法等の確認と発展(90分)。 ・別途レポート(欠席等による課題レポートを補う): 詳細については授業内で説明する。						
授業方法	講義。 スライド、映像資料などを用いて授業を進める。 毎回、授業内容に沿って設けたテーマについての課題レポートを実施。						
評価基準と評価方法	課題レポート60%: 授業内で実施。 レポートテーマは、毎回授業内容によって異なる。 記入内容がテーマに沿っているか、また授業内容の理解と到達目標に関する到達度を確認する。 同レポートに関する個々への評価・質問等へのコメントは、レポート返却にて行う。  期末レポート40%: 到達目標の確認。						
履修上の注意	1. 五回以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。 2. 授業の進行状況によっては、授業内容を変更する場合があります。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	近代文学講読／近代文学を読むB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72220
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	探偵小説を読むこと						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、谷崎潤一郎「途上」と芥川龍之介「報恩記」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解し、説得力のある形で主体的に発信できる高度なコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家谷崎潤一郎のこと 第3回 谷崎潤一郎の作品について 第4回 谷崎潤一郎「途上」講読 導入 第5回 谷崎潤一郎「途上」講読 応用 第6回 谷崎潤一郎「途上」講読 発展 第7回 谷崎潤一郎「途上」講読 展開 第8回 谷崎潤一郎「途上」講読 まとめ 第9回 芥川龍之介のこと 第10回 芥川龍之介「報恩記」講読 導入 第11回 芥川龍之介「報恩記」講読 応用 第12回 芥川龍之介「報恩記」講読 発展 第13回 芥川龍之介「報恩記」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉強に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続していく講読形式。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「高度なコミュニケーション能力や表現力が身についているか」を評価するために筆記試験を実施する。その過程をも重視し、日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に適宜指示						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	近代文学史／日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解し、その文化史的意味、現代的な意義を享受することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の文学 導入 第4回 明治期の文学 応用 第5回 明治期の文学 展開 第6回 大正期の文学 導入 第7回 大正期の文学 応用 第8回 大正期の文学 展開 第9回 昭和期の文学 導入 第10回 昭和期の文学 応用 第11回 昭和期の文学 展開 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習し、授業中に指示した本文テキストを精読しておくこと。関連する作品を数多く読む必要があるため、自宅、図書館等での勉強に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを授業時間の冒頭に各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続する講読形式。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「日本近代の文学を深く理解し、その文化史的意味、現代的な意義を享受することができる」を評価するために筆記試験を実施する。その過程をも重視し、日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『日本近代文学年表』 鼎書房 ISBN978-4-907282-30-1 C0091						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	近代文学の基礎／近代文学を読むA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	犯罪の観点から小説を読む						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、泉鏡花「外科室」と志賀直哉「范の犯罪」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解し、説得力のある形で主体的に発信できる高度なコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家泉鏡花のこと 第3回 泉鏡花の作品について 第4回 泉鏡花「外科室」講読 導入 第5回 泉鏡花「外科室」講読 応用 第6回 泉鏡花「外科室」講読 発展 第7回 泉鏡花「外科室」講読 展開 第8回 泉鏡花「外科室」講読 まとめ 第9回 志賀直哉のこと 第10回 志賀直哉「范の犯罪」講読 導入 第11回 志賀直哉「范の犯罪」講読 応用 第12回 志賀直哉「范の犯罪」講読 発展 第13回 志賀直哉「范の犯罪」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続していく講読形式。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「高度なコミュニケーション能力や表現力が身についているか」を評価するために筆記試験を実施する。その過程を把握するために日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に適宜指示する						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ギリシャの神話と文学／西洋古典入門IA（ギリシアの神話と文学）						
担当教員	木下 昌巳					科目ナンバ-	A71050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	古代ギリシアの神話と文学						
授業の概要	古代ギリシア人の驚嘆すべき文化的達成（文学、歴史、哲学、弁論、彫刻、建築等々）は西洋、ひいては現代世界の学問文化の源流であるとともに、今日もその規範としての意義を失っていない。そして、古代ギリシアの神話は、諸民族の神話と比較しても格段に豊かで洗練された内容をもつものであり、彼らが達成した文化的創造の多くは、この神話から得られたインスピレーションを源泉として生まれだされたと言っても過言ではない。この授業では万華鏡のようなギリシア神話の世界と、その神話を題材としたギリシア古典文学の特質と魅力をあきらかにする。						
到達目標	1. ギリシア神話の世界観を理解し、物語とエピソードを説明することができるようにする。【知識・理解】 2. 古代から現代にいたるまでの西洋の文学や芸術を理解するために不可欠となるギリシア神話とギリシア文学に関する知識を身につけることができる。【汎用性技能】 3. ギリシア神話の知識を身につけることによって、西洋の文学全体、さらに映画やアニメなどの成り立ちやテーマに対する理解を深めることができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 「神話」とは何か？ ギリシア神話の原典は？ 第2回 ギリシア神話の構造—宇宙の生成、神々、英雄、人間 第3回 ギリシア文学の時代区分と古典期アテナイ—ギリシア文化の黄金期 第4回 王位簋奪神話とオリンポスの神々 第5回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(1)—『イリアス』 第6回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(2)—『オデュッセイア』 第7回 プロメテウス神話とヘシオドスの人間観 第8回 アイスキュロスの『縛られたプロメテウス』 第9回 ギリシア神話の英雄たち—ヘラクレス 第10回 ギリシア神話の英雄たち—ペルセウス 第11回 ギリシア神話と日本の神話 第12回 ギリシア悲劇の最高傑作—ソポクレスの『オイディプス王』 第13回 女の叫び—エウリピデスの『メデア』 第14回 貞淑で賢い女の楽しい話—エウリピデスの『ヘレネー』 第15回 授業内容のまとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回講義前に授業回に該当するテキストの章を熟読しておくこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：松蔭manabaを活用したフィードバック学習に取り組むこと。授業で使用したスライドのファイルはmanabaにアップロードするので、各自ダウンロードして活用すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	パワーポイントを使用したスライドを参照しながら、講義をおこなう。 講義の内容について毎回リアクションペーパーを書いて提出する。						
評価基準と評価方法	1. リアクションペーパー30%、授業終了後のレポート70%として総合的に評価する。 2. レポートについての詳細は授業内で説明する。						
履修上の注意	1. 授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位を認定しない。 2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 3. レポート未提出者は原則単位認定を認めない。						
教科書	『ギリシア神話—神々と英雄に会う』、西村賀子、中公新書 ISBN-12-101798-6						
参考書	『完訳 ギリシア・ローマ神話』（上・下）、トマス・ブルフィンチ（大久保博訳）、角川文庫、ISBN: 978-4042243045、978-4042243052 『100の傑作で読むギリシア神話の世界：名画と彫刻でたどる』、マルグリット・フォンタ（遠藤ゆかり訳）、創元社、ISBN: 978-4422143958						



科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと医療						
担当教員	原 正之					科目ナンバ-	251220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	医療制度全般や医薬品の開発に関わる制度の概説と、新しい医療技術や生命倫理に関わるトピックスの紹介など。						
授業の概要	まず、我が国の医療保険制度の概要を解説する。先端的な医療技術や再生医療について解説する上で、理解の前提となる生物学や化学の基礎的な知識についても、併せて説明を行う。近年関心の高まっている再生医療を中心として先端医療に関わる技術のトピックスを紹介し、その背景となる医学や生物学の技術的進歩、ならびに社会的背景を含めて解説を行う。医薬品、医療用具の認可制度、臓器移植や研究目的での細胞や組織の提供の仕組みについてなど、生命倫理と医療技術の社会的受容に関わる問題について解説する。						
到達目標	医療制度や医療技術に関わる学習を通じて現状を理解し[知識・理解]、新聞やニュース等で報道される問題に関心を持ち[態度・志向性]、将来において自分や家族にも関係のある問題として考えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療制度についての概論</li> <li>2. 再生医療とは？</li> <li>3. 細胞分化と発生のしくみ</li> <li>4. 幹細胞について</li> <li>5. 医療用具とその材料</li> <li>6. 人工臓器と組織工学</li> <li>7. 医薬品、医療用具の認可制度</li> <li>8. 臓器移植について</li> <li>9. クローン動物作成技術</li> <li>10. 生命倫理と社会的受容</li> <li>11. 難病について</li> <li>12. 感染症</li> <li>13. 医療費について</li> <li>14. 医療に関わるトピックス（報道記事などを参考にして事例を解説）</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞（インターネット上の報道も含む）などで報道される医療制度、医療技術についての記事に良く目を通して、必要であれば記録しておく（学習時間：週3時間程度）。授業で配布した資料を用いて復習を行う（学習時間：週1時間程度）。必要に応じて、講義内容に関連した調査や自分の意見についてメモなどの提出を求める事がある。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。主に資料（プリント）に記載された事項の説明を中心に授業を進めるが、自分の意見について簡単なメモの提出を求める事がある。						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度、積極性など）50%と課題レポート提出50%により、総合的に評価する。						
履修上の注意	先端医療に関する著書や、厚生労働白書、報道記事などに注意を払うことを薦める。						
教科書	取り上げる問題が多岐に渡るので、教科書は特に指定しない。						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバ-	251180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	まず、憲法論に限らない法学入門的な導入講義（法律とは何のために必要なのか、単なる道徳と法律の違い、法律の限界等）を行い、その後、憲法総論として、日本国憲法の存在理由やその仕組み（国民主権と政府の関係、憲法とは誰に対して効果を有するものか等）について取り扱う。最後に、憲法各論として、民主主義、平和主義および人権に関する諸問題を取り上げ、最終的に「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことが出来るようになることを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、とりわけ、国民主権、民主主義、基本的人権の保障といった憲法上の重要事項について自らの言葉で説明できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	<p>第1回 I インTRODクシヨN 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史</p> <p>第3回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第4回 III 法律の3部門 1. 民事法</p> <p>第5回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第6回 中間まとめと復習テスト1 (I～III)</p> <p>第7回 IV 憲法はなぜ必要?</p> <p>第8回 V. 憲法の内容 (1) 1. 民主主義 (国会と内閣)</p> <p>第9回 V. 憲法の内容 (1) 2. 民主主義 (地方自治) 3. 民主主義のなかの司法</p> <p>第10回 中間まとめと復習テスト2 (IV～V)</p> <p>第11回 VI. 憲法の内容 (2) : 戦争放棄</p> <p>第12回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 1. なぜ人権を守るのか?</p> <p>第13回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権</p> <p>第14回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 3. 具体例: 表現の自由</p> <p>第15回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 4. 具体例: 平等原則, 生命身体の自由</p> <p>第15回 人権と平和に関するまとめと統治概論 期末試験 (VI～VII)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	講義は対話型で行われるため、予習はもちろん、以前の講義の内容に関わる部分についても問う場合があり、復習も必要となる。 予習として事前配布プリントの該当箇所及び教科書の指定ページを熟読してくる。(120分) 講義受講後は、ノート等を見直し復習を行うこと。まとめノートのようなものを作成することも望まれる。(120分)						
授業方法	参加型講義(パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める)。						
評価基準と評価方法	復習テスト2回(40%)と期末試験(60%)を総合して評価する。 期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか(どのような見解をとるかは当然ながら自由)の2つを評価対象とする。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り、希望学生(パネル)と教師の対話によって講義を進める。学期を通じて当該役割を果たした者には、期末試験において最大10点を加算する。						
教科書	プリント						
参考書	なし (配布資料あり)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバ-	251180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	まず、憲法論に限らない法学入門的な導入講義（法律とは何のために必要なのか、単なる道徳と法律の違い、法律の限界等）を行い、その後、憲法総論として、日本国憲法の存在理由やその仕組み（国民主権と政府の関係、憲法とは誰に対して効果を有するものか等）について取り扱う。最後に、憲法各論として、民主主義、平和主義および人権に関する諸問題を取り上げ、最終的に「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことが出来るようになることを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、とりわけ、国民主権、民主主義、基本的人権の保障といった憲法上の重要事項について自らの言葉で説明できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	<p>第1回 I インTRODクシヨN 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史</p> <p>第3回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第4回 III 法律の3部門 1. 民事法</p> <p>第5回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第6回 中間まとめと復習テスト1 (I～III)</p> <p>第7回 IV 憲法はなぜ必要?</p> <p>第8回 V. 憲法の内容 (1) 1. 民主主義 (国会と内閣)</p> <p>第9回 V. 憲法の内容 (1) 2. 民主主義 (地方自治) 3. 民主主義のなかの司法</p> <p>第10回 中間まとめと復習テスト2 (IV～V)</p> <p>第11回 VI. 憲法の内容 (2) : 戦争放棄</p> <p>第12回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 1. なぜ人権を守るのか?</p> <p>第13回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権</p> <p>第14回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 3. 具体例: 表現の自由</p> <p>第15回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 4. 具体例: 平等原則, 生命身体の自由</p> <p>第15回 人権と平和に関するまとめと統治概論 期末試験 (VI～VII)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	講義は対話型で行われるため、予習はもちろん、以前の講義の内容に関わる部分についても問う場合があり、復習も必要となる。 予習として事前配布プリントの該当箇所及び教科書の指定ページを熟読してくる。(120分) 講義受講後は、ノート等を見直し復習を行うこと。まとめノートのようなものを作成することも望まれる。(120分)						
授業方法	参加型講義(パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める)。						
評価基準と評価方法	復習テスト2回(40%)と期末試験(60%)を総合して評価する。 期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか(どのような見解をとるかは当然ながら自由)の2つを評価対象とする。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り、希望学生(パネル)と教師の対話によって講義を進める。学期を通じて当該役割を果たした者には、期末試験において最大10点を加算する。						
教科書	プリント						
参考書	なし (配布資料あり)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしの中の統計学						
担当教員	津久井 茂樹					科目ナンバ-	251210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中や実験、調査等で使われる数字を、簡単な統計を使って分かりやすく読み解きます。						
授業の概要	身近なくらしの中で、統計学が使われる場面が多くあります。その使われ方を簡単な例を通して学ぶことで、データ分析の手法と、データが意味する本質を理解することを目的とします。授業では、ハンバーガーやアイスシヨップなどの、身近な話題を題材に、その評価をデータの代表値や散らばりなどのデータ分析から、相関、推定、検定などの統計操作、および簡単な確率やモデリングなどを利用して統計学的に処理する方法を学びます。難しい数学を使わずに統計の基礎を学び、実験データやアンケートなどのデータ分析、情報処理などの統計学的な扱いを学びます。						
到達目標	集団の統計量である平均、分散、標準偏差の算出方法と、それらの意味を説明できるとともに、正規分布を図表を用いて表すことができる。また、それらの分布の差を論じることができる。【知識・理解】 2つの集団の平均を比較するt検定（対応なし、対応あり）において、信頼区間、有意水準の違いによる帰無仮説に対する破棄の可否を判断し、明快な文章で記述することができる。【知識・理解】 2つのデータの相関の強さを決める相関係数、決定係数を計算し、無相関検定により相関の可否を判断することができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回:Orientation／統計学とはなに？／教科書『統計学がわかる』のハンバーガー店のポテトの売上を例題に ／第1章、ポテトの長さの均一性[1/2]—「平均」</p> <p>第2回:第1章、ポテトの長さの均一性[2/2]—用語を知っておこう/度数分布」、「分散」、「標準偏差」；「偏差値」のマジック</p> <p>第3回:第2章、ポテトの本数[1/2]—「母集団」、「標本」、「抽出」、「推定値」</p> <p>第4回:第2章、ポテトの本数[2/2]—「区間推定」、「信頼区間」、「t分布表と自由度」；「選挙速報」の怪</p> <p>第5回:第3章、ライバル店との売上高比較[1/2]—「仮説をたてる」、「カイ2乗値」、「カイ2乗値の分布」</p> <p>第6回:第3章、ライバル店との売上高比較[2/2]—「カイ2乗検定と自由度」、「有意水準」、「仮説検定」、「決断のとき」</p> <p>第7回:第4章、どちらの商品が人気?[1/2]—「対応のないt検定」、「差の信頼区間」、「有意差」</p> <p>第8回:第4章、どちらの商品が人気?[2/2]—「t検定の実施」；「秘密?の有意差」</p> <p>第9回:第5章、ライバル店の人気の秘密は?[1/2]—「対応のあるt検定」</p> <p>第10回:第5章、ライバル店の人気の秘密は?[2/2]—「対応のあり/なしの比較」；「こころの数値化?」</p> <p>第11回:『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』のアイスクリーム店の売り上げを例に。 第1章、最高気温と客数の関係を知りたい—「散布図と相関」</p> <p>第12回:第2章、相関の強さを知りたい[1/2]—「相関係数」</p> <p>第13回:第2章、相関の強さを知りたい[2/2]—「相関係数の意味を考える」</p> <p>第14回:第3章、その相関係数に意味はあるのか?—「無相関検定」</p> <p>第15回質疑応答と試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業で取り扱う教科書の章を読み、疑問点や質問内容等をまとめる。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り扱った内容や小テストを復習し、疑問点や質問内容等をまとめる。（学習時間：2時間）</p> <p>※授業前準備学習や授業後学習で生じた疑問点や質問内容を、次の授業で質問する。</p> <p>※身の回りの統計に関する内容を理解し、疑問があれば次の授業で質問する。</p>						
授業方法	<p>パワーポイントを使って分かりやすい授業を行ない、視覚的な理解を助けます。</p> <p>教科書を軸にしつつ、毎回講義資料を配布して理解を深めます。</p> <p>毎回、授業時間内に小テストを実施し、内容の理解を深めます。</p>						
評価基準と評価方法	<p>小テスト(40%)、期末試験(60%)の得点から理解度を評価します。</p> <p>欠席の小テストは、欠席理由を明記して後日提出してください。</p> <p>連絡なしでの欠席が6回を越えると単位認定から除外します。</p>						
履修上の注意	<p>授業および試験では、必ず計算機（ルート√計算機能あり）を持参して下さい。</p> <p>90分間、授業に集中してください。</p> <p>くらしの中で、どのように統計学が使われているか、どのように統計学を使うと暮らしが豊かになるかを考えてください。</p>						
教科書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる』（技術評論社）						

参考書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる【回帰分析・因子分析偏】』（技術評論社） 小島寛之著『完全独習統計学入門』（ダイヤモンド社） 柳谷晃著『統計解析の基本』（日本能率協会マネジメントセンター） 中西寛子著『統計学の基礎』（多賀出版）
-----	---

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	経済学						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	752320
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「経済学的な考え方」を学ぶ						
授業の概要	経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、「経済学的な考え方」について、また経済のしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に講義します。そして現代社会におけるさまざまな経済事象や経済問題を考察する際、経済学の「概念装置」(基礎的なものとはいえ)を通してその本質の理解に一步近づければと考えています。新聞・TV・ネットなどで話題になっている経済トピックについて取り上げ、「経済学的な考え方」にもとづいて分かりやすく説明する予定です。						
到達目標	(1)経済を分析・総合する上で必要な、経済学の基本的な概念や理論装置が理解できる。【知識・理解】 (2)学んだ経済学的知見を通して、経済に関わる具体的な事象や問題をより深く理解できるようになる。【知識・理解】 (3)ネットや新聞の記事に見られるトピカルな経済事象や問題を経済学的な思考枠組みで、これまでより深く読解し、内容を考察できる。【知識・読解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、わたしたちにとって「経済」とは？</li> <li>2. 経済学的な見方・考え方：さまざまな経済学</li> <li>3. 簡単な経済学の歴史①：古典派経済学の現代性と限界</li> <li>4. 簡単な経済学の歴史②：古典派経済学批判～現代経済学</li> <li>5. 経済システムと組織①：市場のしくみ</li> <li>6. 経済システムと組織②：企業の役割・変化しつつある企業組織の現状</li> <li>7. マクロ経済学の基礎知識①：マクロ経済学とは何か／国民経済勘定について／経済成長率について</li> <li>8. マクロ経済学の基礎知識②：経済政策の必要性</li> <li>9. マクロ経済学の基礎知識③：財政政策と金融政策</li> <li>10. 開放経済のマクロ経済学</li> <li>11. ミクロ経済学の基礎知識①：ミクロ経済学とは何か／消費者の行動</li> <li>12. ミクロ経済学の基礎知識②：企業の経済行動</li> <li>13. ミクロ経済学の基礎知識③：価格と生産量の決定：市場</li> <li>14. ミクロ経済学の基礎知識④：市場メカニズムは効率的か？</li> <li>15. 経済のグローバル化とその功罪 およびまとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：授業で提示されたトピックをWEB・参考文献を利用して調べ、指示された様式にまとめる。(2時間) 授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。(2時間)						
授業方法	極力双方向の授業を目指します。内容理解と知識の整理のために、できるだけ頻回に確認テストを実施する予定です。そのさいに、現在の経済にかかわる主要な問題や出来事についても出題する予定です。またその解説も平明に行うつもりです。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%(確認テスト・発表)						
履修上の注意	「現代社会と経済」を履修済みかあるいは経済学に積極的関心のある者が履修することが望ましいです。なるべく理解度を確認しながら進むつもりなので講義スケジュールの順序・かける時間に多少の異同はあります。授業マナーをしっかり守る〔私語・途中退出・遅刻は厳禁〕。提出物を求められたときは期日厳守。						
教科書	プリント・資料などを配付						
参考書	井堀利宏著『図解雑学マクロ経済学』(ナツメ社) 嶋村・横山著『図解雑学ミクロ経済学』(ナツメ社) 中原他著『日本経済の常識』(ナカニシヤ書店) 山田鋭夫著『レギュレーション理論』(講談社新書) J.スティグリッツ著『入門経済学』(東洋経済新報社)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z51160
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	<p>社会生活において、また来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことから平明に解説をします。</p> <p>その際、できるだけ、日本経済に大きな関わりをもつと思われるトピックを新聞やネットから(ときには皆さんの関心の高いテーマから)題材としてピックアップし、説明したいと考えています。</p>						
到達目標	<p>(1)経済の基本的なしくみや制度、「戦後～現代」の主要国・地域の大まかな経済の推移が理解できる。【知識・理解】</p> <p>(2)経済知識の学習を通して、経済に関わる具体的な事象や問題を理解できるようになる。【知識・理解】</p> <p>(3)トピカルな経済事象や問題を自らの経済生活と関連づけて認識し、ネットや新聞の経済記事をこれまでより身近により興味をもって、読み、考察できる。【知識・理解、態度・志向性】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済とは何か？誰のための経済か？—GNPとGNH</li> <li>2 「市場」のはたらきを学ぶ①</li> <li>3 市場の種類とそのしくみ②</li> <li>4 市場の限界③</li> <li>5 「企業」の役割を学ぶ①</li> <li>6 株式会社の基本的なしくみ②</li> <li>7 コーポレート・ガバナンスとCSR③</li> <li>8 経済における政府の役割①：経済政策</li> <li>9 経済における政府の役割②：社会政策</li> <li>10 「銀行」のしくみを学ぶ①</li> <li>11 日本銀行の役割②</li> <li>12 国際経済のしくみ①：交易</li> <li>13 国際経済のしくみ②：金融</li> <li>14 為替レートの変動がもたらすもの</li> <li>15 まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：授業で提示されたトピックをWEB・参考文献を利用して調べ、指示された様式にまとめる。(2時間)</p> <p>授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。(2時間)</p>						
授業方法	<p>極力双方向をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。</p>						
評価基準と評価方法	<p>期末試験70%、平常点30%(チェックシート・発表)</p>						
履修上の注意	<p>授業マナーをしっかりと守る(私語・途中退室・遅刻は厳禁)。 積極的に授業に臨まれることを希望します。</p>						
教科書	<p>プリント・資料を配布します。</p>						
参考書	<p>中原他著『日本経済の常識』(ナカニシヤ出版)</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z51160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	<p>社会生活において、また来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことから平明に解説をします。</p> <p>その際、できるだけ、日本経済に大きな関わりをもつと思われるトピックを新聞やネットから(ときには皆さんの関心の高いテーマから)題材としてピックアップし、説明したいと考えています。</p>						
到達目標	<p>(1)経済の基本的なしくみや制度、「戦後～現代」の主要国・地域の大まかな経済の推移が理解できる。【知識・理解】</p> <p>(2)経済知識の学習を通して、経済に関わる具体的な事象や問題を理解できるようになる。【知識・理解】</p> <p>(3)トピカルな経済事象や問題を自らの経済生活と関連づけて認識し、ネットや新聞の経済記事をこれまでより身近により興味をもって、読み、考察できる。【知識・理解、態度・志向性】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済とは何か？誰のための経済か？—GNPとGNH</li> <li>2 「市場」のはたらきを学ぶ①</li> <li>3 市場の種類とそのしくみ②</li> <li>4 市場の限界③</li> <li>5 「企業」の役割を学ぶ①</li> <li>6 株式会社の基本的なしくみ②</li> <li>7 コーポレート・ガバナンスとCSR③</li> <li>8 経済における政府の役割①：経済政策</li> <li>9 経済における政府の役割②：社会政策</li> <li>10 「銀行」のしくみを学ぶ①</li> <li>11 日本銀行の役割②</li> <li>12 国際経済のしくみ①：交易</li> <li>13 国際経済のしくみ②：金融</li> <li>14 為替レートの変動がもたらすもの</li> <li>15 まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：授業で提示されたトピックをWEB・参考文献を利用して調べ、指示された様式にまとめる。(2時間)</p> <p>授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。(2時間)</p>						
授業方法	<p>極力双方向をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。</p>						
評価基準と評価方法	<p>期末試験70%、平常点30%(チェックシート・発表)</p>						
履修上の注意	<p>授業マナーをしっかりと守る(私語・途中退室・遅刻は厳禁)。 積極的に授業に臨まれることを希望します。</p>						
教科書	<p>プリント・資料を配布します。</p>						
参考書	<p>中原他著『日本経済の常識』(ナカニシヤ出版)</p>						



科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z51150
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	<p>授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。</p> <p>新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。</p>						
到達目標	<p>(1) 政治の基本的なしくみや制度、政治学上の初歩的な概念や主要な近代以降の政治思想が理解できる。 【知識・理解】</p> <p>(2) 政治(学)的な知識の学習を通して、政治に関わる具体的な事象や問題を理解できるようになる。 【知識・理解】</p> <p>(3) トピカルな政治的事象や問題を自らの現実生活との関わりにおいて認識し、ネットや新聞の政治記事をこれまでより身近により興味をもって、読み、内容を考察できるようになる。【知識・理解、態度・志向性】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに：「政治」とは何だろう</li> <li>2 民主主義再考(最高?)</li> <li>3 民主主義の歴史をふり返る</li> <li>4 「保守」「革新」という考え</li> <li>5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型</li> <li>6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴</li> <li>7 政治と国家(1)：国家機能の変遷</li> <li>8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割</li> <li>9 世論の支配とマスメディア</li> <li>10 日本の行政改革・司法改革とその問題</li> <li>11 歴史認識とナショナリズム</li> <li>12 日本と中国・北朝鮮・韓国・ロシア</li> <li>13 日本と米・欧</li> <li>14 日本とイスラーム諸国</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：授業で提示されたトピックをWEBや参考文献を用いて調べ、指示された様式でまとめる。(2時間)</p> <p>授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。(90分)</p>						
授業方法	<p>極力双方向を目指したいと思います。</p> <p>理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>試験70%と平常点30%(チェックシート・発表)で評価します。</p>						
履修上の注意	<p>理解度を測りながらすすむつもりなので、講義スケジュールの順序・かける時間などに多少の変更がでる可能性があります。</p> <p>提出物を指示された場合は期日を厳守すること。</p> <p>問題意識をもって、積極的に授業に参加されることを期待します。</p>						
教科書	<p>プリント・資料を配布します。</p>						
参考書	<p>授業中に紹介します。</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	251150
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	<p>授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。</p> <p>新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。</p>						
到達目標	<p>(1) 政治の基本的なしくみや制度、政治学上の初歩的な概念や主要な近代以降の政治思想が理解できる。 【知識・理解】</p> <p>(2) 政治(学)的な知識の学習を通して、政治に関わる具体的な事象や問題を理解できるようになる。 【知識・理解】</p> <p>(3) トピカルな政治的事象や問題を自らの現実生活との関わりにおいて認識し、ネットや新聞の政治記事をこれまでより身近により興味をもって、読み、内容を考察できるようになる。【知識・理解、態度・志向性】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに：「政治」とは何だろう</li> <li>2 民主主義再考(最高?)</li> <li>3 民主主義の歴史をふり返る</li> <li>4 「保守」「革新」という考え</li> <li>5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型</li> <li>6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴</li> <li>7 政治と国家(1)：国家機能の変遷</li> <li>8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割</li> <li>9 世論の支配とマスメディア</li> <li>10 日本の行政改革・司法改革とその問題</li> <li>11 歴史認識とナショナリズム</li> <li>12 日本と中国・北朝鮮・韓国・ロシア</li> <li>13 日本と米・欧</li> <li>14 日本とイスラーム諸国</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：授業で提示されたトピックをWEBや参考文献を用いて調べ、指示された様式でまとめる。(2時間)</p> <p>授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。(90分)</p>						
授業方法	<p>極力双方向を目指したいと思います。</p> <p>理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>試験70%と平常点30%(チェックシート・発表)で評価します。</p>						
履修上の注意	<p>理解度を測りながらすすむつもりなので、講義スケジュールの順序・かける時間などに多少の変更がでる可能性があります。</p> <p>提出物を指示された場合は期日を厳守すること。</p> <p>問題意識をもって、積極的に授業に参加されることを期待します。</p>						
教科書	<p>プリント・資料を配布します。</p>						
参考書	<p>授業中に紹介します。</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	Z51170
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディア・コミュニケーションの科学						
授業の概要	ICT（情報通信技術）の急速な発展、それに伴ったデジタルデバイスの進展やアプリケーションの普及など、インターネットを中心にメディアを取り巻く環境はめまぐるしく変化を続けている。情報量が増大する中、利用者側も情報取得経路や購買行動が変わるなど大きな影響を受けており、今後も変化していくことが予想される。本講義では、具体的な事例や関連ニュースなどを取り上げながら、今日のメディア・コミュニケーションに対する理解を深めていく。						
到達目標	(1) メディアを使った情報伝達活動についての基本的な知識を習得できる。【知識・理解】 (2) メディア・コミュニケーションを分析するためのさまざまな視角を知ることができる。【知識・理解】						
授業計画	1 インTRODクシヨン 2 コミュニケーションとは何か 3 メディアとは何か 4 文字のコミュニケーション 5 映像のコミュニケーション 6 ソーシャルメディアとコミュニケーション 7 グループワーク：これまでのまとめ 8 メディア・コミュニケーションの影響力 9 流行とメディア 10 うわさ 11 広告とコミュニケーション 12 広報とコミュニケーション 13 アートとコミュニケーション 14 災害とコミュニケーション 15 授業のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 各回授業で扱うテーマに関するニュースや新聞記事を下調べし、自分の考えや意見をまとめる。（学習時間：2時間） 授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理し、ノートを作成する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義を中心とするがグループワークを行うことがある。 ICT機器を活用して各回受講生の考えや意見を取り入れるなど、双方向型の授業を実施する。 松蔭manabaを利用して期末試験を行う。						
評価基準と評価方法	期末試験（小テストとレポート） 70%： 授業で扱った内容の理解度を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。 授業への参加度 30%： 各回授業中に出題する質問への回答の的確性、および、授業内容に関するコメントおよび質問の的確性、を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。 質問への回答および授業内容に関するコメント・質問について、翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	辻大介・是永論・関谷直也、『コミュニケーション論をつかむ』、有斐閣、2014年						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養I／（哲学から考える世界と人間）						
担当教員	木下 昌巳					科目ナンバ-	251270
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	哲学とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対して全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問である。究極的な意味において、世界は何からできているのか？私たち人間は、何をどこまで知ることができるのか？そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに正面から取り組み、可能な限りその解答を得ようとするのが哲学である。この授業では、哲学という学問を初めて学ぶ人に対して古代ギリシアと近世ヨーロッパの主要な哲学者の思想を取り上げ解説する。哲学という学問の問題意識と代表的な思想家の思想内容を理解することによって、論理的・抽象的思考の能力を養う。						
授業の概要	この授業では、前半では西洋において哲学的思考が誕生した紀元前5世紀から4世紀の古代ギリシアの哲学者の思想を、後半では西洋における哲学的思考の最盛期と言える17世紀から19世紀の重要な哲学者の思想を年代順に取り上げながら、彼らの問題意識と思想内容を解説する。さらに、授業のテーマと関連する現代的なトピックに関する参考資料を参照しながら、現代における哲学の問題意識とその必要性をあきらかにする。						
到達目標	1. 主要な哲学者の思想を理解して、哲学という学問の問題意識と思考方法を理解できるようにする。【知識・理解】 2. 過去の哲学者の考え方の道筋を知ることによって、それを通じてあらゆる学問の基礎となるような理論的・抽象的な思考方法を身につけることができるようにする。【汎用性技能】 3. 哲学とは、難解な専門用語や哲学者の名前や著作名を暗記することではない。生きていくなかで直面するさまざまな問題に対して、常識や先入観によって答えを決めつけるのではなく、そこで問題になっていることを自分の頭で自律的に考える態度を身につけ、それを他者にも理解できような仕方での自分の言葉で説明できるようにする。【態度・指向性】						
授業計画	【哲学とは何か】 01 「哲学」とは何か？－「知を愛する」という営み 【古代ギリシアの哲学】 02 「哲学」の始まり－古代ギリシアと哲学 03 万物の始源を求めて－ミレトス派の問い 04 アキレスと亀－エレア派の思想 05 「よく生きる」ために－ソクラテスの生き方 06 プラトンのイデア論 07 「万学の祖」－アリストテレス 【ヨーロッパ近代の哲学】 08 デカルトの哲学1－「私は考える。ゆえに私は存在する。」 09 デカルトの哲学2－心身二元論 10 ロックの経験論－生得観念とタブラ・ラサ 11 ヒュームの経験論－因果律の否定 12 カントの哲学－コペルニクス的転回 13 ニーチェの思想1－道徳の系譜学 14 ニーチェの思想2－貴族道徳と奴隷道徳 15 哲学的思考の現代的意義						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回講義前に授業回該当するテキストの章を熟読しておくこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：松蔭manabaを活用したフィードバック学習に取り組むこと。授業で使用したスライドのファイルはmanabaにアップロードするので、各自ダウンロードして活用すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	パワーポイントを使用したスライドを参照しながら、講義をする。 講義の内容について毎回リアクションペーパーを書いて提出する。						
評価基準と評価方法	1. リアクションペーパー30%、授業終了後のレポート70%として総合的に評価する。 2. レポートにの詳細については授業内で説明する。						
履修上の注意	1. 授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位を認定しない。 2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 3. レポート未提出者は原則単位認定を認めない。						
教科書	『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』、伊藤邦武、中央公論新社、ISBN:978-4121021878						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008）ISBN:978-4124035186 他 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史。内容は細かいが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識を得ることができる。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養II／（進化から考える人間らしさ）						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	251280
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間らしさを進化から考える						
授業の概要	科学・技術が急速に発達し、社会生活も大幅に変化した現代であるからこそ、自己形成と社会的実践に通底する基盤的能力ともいえる「教養」が必要になっている。「教養」とはまた、多くの情報に溢れた現代社会において、必要な知識を選択したり、応用したり、あるときは物事に対して論理的に批判するための豊かな知識ともの見方を与えてくれる。この授業では、人間自身を対象とした科学的探求について学び考えながら、現代的教養の基礎を築くことを目的とする。						
到達目標	<p>(1) 自然にかかわる教養の一つとして人間の進化について基本的な知識を持ち、人間の身体や心の働きを進化論的視点から説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) 社会にかかわる教養の一つとして、現代社会とそこで生きる人間の問題を進化論的視点から考えることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) 人間に対する理解を深めることを通して、他者への寛容や共生の精神を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	第1回 人類進化を学ぶ意味 第2回 人間の祖先はサルって本当？：動物の進化 第3回 人間の祖先はサルって本当？：ヒトとサルの共通点 第4回 人類進化の始まり 第5回 初期ホモ属 第6回 ホモ・サピエンス 第7回 人類の世界への拡がりとお見の多様性 第8回 人間が見る世界、聞く世界 第9回 人間の知らない世界 第10回 道具使用 第11回 模倣 第12回 なぜ群れを作るのかと達成度確認試験 第13回 協力と援助：利他的な性質を持つ動物 第14回 協力と援助：サルとヒトの特徴 第15回 人間らしい感情の進化 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間2時間）。 授業の参考書（シラバス参考書欄にあるようにWEB上で紹介）を読む（学習時間2時間）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出するリアクションペーパーの評価 50%、試験 50% 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント、質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）から（3）に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業で回答する。 試験：到達目標（1）から（2）の到達度の確認。						
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「人類の進化」						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養Ⅳ／（裁判員のための法律入門）						
担当教員	西上 治					科目ナンバ-	752340
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	裁判員制度の概要とそれに関連する刑事法の基礎						
授業の概要	裁判員制度の概要とそれに関連する刑事法の基礎						
授業の概要	裁判員制度の概要とそれに関連する刑事法の基礎						
到達目標	(1) 裁判員制度の概要を把握するとともに、刑事法の基礎に習熟すること、(2) 法律や裁判を身近に感じるとともに、社会生活を送る上で有益な法律の教養的知識を得ること、を目標とします【知識・理解】。						
授業計画	01. イントロダクション 02. 裁判員制度の概要と刑事法の基礎 03. 量刑 (1) 概要 04. 量刑 (2) 実務と実例 05. 量刑 (3) ケーススタディ 06. 正当防衛 (1) 概要と実例 07. 正当防衛 (2) ケーススタディ 08. 故意 (1) 概要 09. 故意 (2) 実務と実例 10. 故意 (3) ケーススタディ 11. 冤罪 (1) 概要と実例 12. 冤罪 (2) ケーススタディ 13. 死刑 (1) 概要と実例 14. 死刑 (2) ケーススタディ 15. まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次回の授業のために予習すべき内容（文献や出来事など）を各回の授業時に指示しますので、授業に出席する前に必ず目を通してください（学習時間1時間半）。 授業後学習：授業で配布した資料を用いて、習った範囲で法律に関する基礎的知識を定着させる（例えば、専門用語や制度の意味を正しく理解する）よう努めてください（学習時間1時間半）。						
授業方法	授業では、最高裁判所等が作成・公表しているパンフレット・動画をふんだんに使って、裁判員制度の内容や刑事法の基礎を具体的に把握します。講義形式を基本としつつ、架空の事例を用いてグループワークも行います。						
評価基準と評価方法	授業中の活動（授業中の提出物やグループワーク）50%、期末試験50%により評価します。いずれにおいても、到達目標(1)および(2)に関する到達度を確認します。						
履修上の注意	平常点の割合が大きいので、毎回しっかり参加してください。法律の知識は全く不要ですが、日々報道される法律や裁判に関する時事問題に興味を持って参加してください。						
教科書	特にありません。資料を授業中に配布します。						
参考書	山下純司ほか『学生生活の法学入門』（弘文堂、2019）ISBN：978-4335356988						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養V／地域研究I／（現代の東アジア）						
担当教員	根岸 智代					科目ナンバー	Z52350
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	アジア社会の歴史と現状及び日本との関係を考察する。						
授業の概要	中国をはじめとするアジア社会の現状を歴史的視点などから考察する。アジアとは何か、どのように観るべきかという問題について理解を深めることを目的とする。						
到達目標	現代東アジア地域の社会や文化、自然や実情を理解し、日本とのかかわりを考察するための視点を獲得し、教養を身に着けることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 中国 中国概観 第2回 中国の歴史（1） 第3回 中国の歴史（2） 日中戦争 第4回 中国の歴史（3）～現在の日中関係 第5回 台湾（1）～日本統治時代 第6回 台湾（2） 戦後～現在 第7回 台湾（3） 日台関係 第8回 香港（1） 香港の歴史 第9回 香港（2） 香港の今 第10回 韓国（1） 韓国概要 歴史 第11回 韓国（2）～現在 第12回 シンガポール 第13回 ベトナム 第14回 その他のアジアの国々 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業内容を理解するために、各回に取り上げる議題について、図書などを通して知識をえておくこと。 授業後には、授業で渡したレジュメをもとに、東アジアの国々の諸事情をまとめ、さらに興味を持った点などを明らかにしておくこと。事前、事後、2時間程度の時間、準備と復習にあてるよう希望する。 日頃から新聞やテレビ等で、東アジア及びアジア全般の情報を収集するよう希望する。						
授業方法	講義形式で行う。映像や画像を用いて説明し、授業内容に沿ったレジュメを用意する。 また、各回の最後にレポートを提出し、毎回の授業でのまとめを行う。また毎回ごとに、紹介する東アジアの国と日本がどう関わらべきかを話しあってもらいたい。						
評価基準と評価方法	論述式の試験（70%）と小テスト及び中間テスト（30%）で評価する。						
履修上の注意	積極的に授業に参加することを希望する。						
教科書							
参考書	授業中にプリント等で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の倫理						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ-	251010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の諸問題についての倫理的考察						
授業の概要	グローバル化が進む現代社会では、自分の意見をしっかりと持ち、それを他人にも分かる形で表現することが求められます。 この授業では、受講者一人一人がこれから社会で直面すると思われる倫理的問題を取り上げ、それについて各自が自分の意見を持つことができるように指導していきます。また、その自分の意見を、異なる世代、異なる文化背景を持つ人たちに正しく伝える技術を学びます。						
到達目標	(1) 社会に出たときにぶつかるであろう様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処できるようになる。 【態度・志向性】 (2) 社会、文化、自然等に関わる幅広い教養を身につけている。【知識・理解】						
授業計画	第1回 善悪について、倫理とは何か、道徳とは何か 第2回 人間について、私とは誰か、人間らしい生き方とはどういうものか 第3回 犯罪について、少年犯罪は増えているのか、その原因は何か 第4回 社会について、監視社会は平和なのか、社会を作っているのは誰か 第5回 殺人について、なぜ人を殺してはいけないのか 第6回 死刑について、死刑制度は必要か、裁判員制度は必要か 第7回 自殺について、死にたいと言う人を助けることは正しいか 第8回 教育について、なぜ勉強しなければいけないのか、義務教育は必要か 第9回 女性について、男女平等社会は実現できるのか、実現すべきなのか 第10回 母性について、母親になるとはどういうことか、母親の役割とは何か 第11回 父性について、父親の役割とは何か、父親は必要か 第12回 不倫について、不倫はなぜ悪いことなのか、浮気をするのは人間の本能か 第13回 麻薬について、麻薬の恐ろしさと、その犯罪性について 第14回 震災について、阪神大震災と東日本大震災、原発は必要か 第15回 戦争について、なぜ人類は戦争をやめないのか、これからの世界はどうなっていくか						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞、雑誌、ネットニュースなどで、授業で扱った内容に関わるものを探し、その内容を把握する。また、授業で出てきた倫理学の用語などについて、不明な点は講師に質問するか、自分で調べておく。（学習時間：4時間/週）。						
授業方法	講義形式で行います。 講義で扱われたテーマについてペアでディスカッションを行い、その報告を踏まえて次のテーマを選んでいきます。 ペアを組むのが難しい場合は、紙上ディスカッションとして小レポートの内容を講師が発表し、それについての意見を述べてもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点：30点（毎回の小レポートの内容を2点/1点/0点で採点していきます。欠席の場合は0点になります。） 期末試験：70点（授業全体の理解を試すテストを最終回に行います。）						
履修上の注意	毎回、深刻な事件（殺人などを含む）を題材とするので、上の授業計画に目を通して不安や不快感を持ってしまふ人にはお勧めできません。事前に自分で判断してから履修するようにして下さい。						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						



科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	神戸研究総論						
担当教員	単位認定者：田附 敏尚					科目ナンバ-	752330
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	歴史・文学・芸術文化などの面からの「神戸」探究						
授業の概要	本学の位置する「神戸」は「モダンな街」として語られるが、150年前の「神戸開港」以前にも長い歴史があり、各時代においてさまざまなドラマを展開してきた。そのような「神戸」の様々な面を、本学の教員と神戸市立博物館の学芸員がそれぞれの専門分野から多角的に論じ、その姿を明らかにする。						
到達目標	本学の所在地「神戸」について、各回で学んだ内容を理解し、多角的にその特徴や魅力を述べることができる。 (知識・理解(2))						
授業計画	<p>【総論】</p> <p>1 「神戸研究総論」について（本講義の目的と概要について解説する。）</p> <p>【歴史】</p> <p>2 考古学：阿部 功 （六甲山系南麓の弥生時代の遺跡に着目し、高地性集落と銅鐸の謎について解説する。）</p> <p>3 中世史：三好 俊 （今日も残る歴史の足跡をたどりながら、中世の神戸の様子を考察する。）</p> <p>4 近世史：永山 未沙希 （近世後期～幕末期の神戸の歴史的特質を資料に基づいて論じる。）</p> <p>5 近代史：水嶋 彩乃 （近代神戸の大きな特徴であり、神戸のイメージを形成するもととなった旧神戸外国人居留地について、その成り立ちから返還までの歴史を居留地に関わった人物や建築物等に注目して紹介する。）</p> <p>【文学】</p> <p>6 古典文学：田中 まき （『伊勢物語』や『源氏物語』で神戸が舞台となっている話を紹介し、平安時代の神戸の姿を考察する。）</p> <p>7 近現代文学：青木 稔弥 （1900年9月9日、夏目漱石は、諏訪山温泉に泊まった。神戸市街を俯瞰できる今は存在しない温泉である。漱石と神戸の関係を考える。）</p> <p>8 方言：田附 敏尚 （神戸周辺で使われていることばの変容について、複数の言語地図等から考察する。）</p> <p>【芸術文化】</p> <p>9 食生活：江 弘毅 （開港以来の神戸の洋食の系譜を概説する。）</p> <p>10 建築・デザイン：中林 浩 （神戸にも人びとの暮らしのなかで育まれた愛すべき景観が多くあることを紹介する。）</p> <p>11 ファッション：徳山 孝子 （“神戸ファッション”イコール“おしゃれ”というイメージを歴史的背景から読み解く。）</p> <p>12 神戸の美術コレクターたち：石沢 俊 （明治から昭和初期にかけて活躍した神戸ゆかりのコレクター（川崎正蔵、池長孟）の功績と意義を探る。）</p> <p>13 神戸のカミとホトケー古の祈りのかたち：川野 憲一 （近代以降のイメージが強い神戸に息づく古（いにしえ）のカミとホトケの姿を探る。）</p> <p>14 神戸の書と芸術：丸山 果織 （書が海外でも評価されるきっかけとなった、神戸の書家と画家の交流について論じる。）</p> <p>15 神戸のイメージ：西川 純司 （映画やドラマ、漫画に描かれた神戸のまちのイメージを辿る。）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前：授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをすること。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：2時間）</p> <p>授業で取り上げた場所へ足を運び、実感することも望ましい。</p>						
授業方法	<p>講義（オムニバス）</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】</p> <p>神戸市立博物館の学芸員を講師として招き、博物館学芸員としての実務の経験を基にして、多角的かつ実践的な視点から「神戸」に関する研究を指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>各回の課題・レポート70%、リアクションペーパー30%</p> <p>・各回で簡単な課題を課し、各回で評価する。各回の評価を単位認定者が取りまとめ、総合的に最終評価を下す。</p>						
履修上の注意	<p>1. 毎回、授業内（授業後の場合もある）で課題・レポートを提出する。</p> <p>2. 授業回数の3分の1以上欠席した者については、特段の理由ある場合を除き単位を認めない。</p>						

教科書	使用しない。プリントを配布することがある。
参考書	授業時に随時紹介する。

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	神戸論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちを知り、その特徴と魅力を概観する。						
授業の概要	この授業では、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の産業、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。続いて、神戸の社会問題とその解決方法について理解する。さらに、得られた知見を他の都市社会に応用し、よりよい社会生活を送るための知識を習得する。最後に震災と復興を経験した都市として、神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。						
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。(知識・理解) (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。(知識・理解) (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること ができる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 神戸と開港 第3回 外国人居留地の歴史と現在 第4回 神戸の外国人とコミュニティー 第5回 神戸の近代建築 第6回 神戸の洋食～欧米料理 第7回 神戸の中国料理と南京町 第8回 神戸の洋菓子、パン 第9回 神戸の観光(ゲスト・スピーカー招聘予定) 第10回 神戸の地勢、自然と公園 第11回 ファッション都市・神戸 第12回 神戸と阪神間モダニズム 第13回 阪神大水害、神戸大空襲、阪神淡路大震災と神戸 第14回 メディアのなかの神戸 第15回 神戸流生活術						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	神戸の都市としての特徴や魅力を参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽…から抽出し、資料としてストックし、学習すること(90分)。 その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること(120分)。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。 神戸の観光について「おとな旅、神戸」実行委員会ご担当の神戸市職員の方にゲスト講師に来ていただきます。  【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌の編集長であった職歴を生かして、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などの事例を紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験＝試論(1200字)50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答(コール&レスポンス)、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書							
参考書	『神戸学』崎山昌廣監修、神戸新聞総合出版センター ISBN4-343-00353-1 『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339 『古地図で見る神戸』大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343006035 『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007254 『神戸外国人居留地—ジャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN:9784875211280						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	梅野 智美					科目ナンバ-	Z51230
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	(1) 臨床心理学に関する基礎知識およびアプローチについて説明することができる【知識・理解】 (2) 自分や周囲のメンタルヘルスに対する興味をより具体的なものとして意識することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 本講義についての概要 第2回 こころの健康とストレス 第3回 思春期のこころの病（統合失調症、うつ病） 第4回 発達障害 第5回 心理テスト①（知能検査、質問紙法） 第6回 心理テスト②（投射法） 第7回 心理療法①（精神分析、来談者中心療法） 第8回 心理療法②（行動療法、認知行動療法） 第9回 心理療法③（家族療法、ブリーフセラピー） 第10回 ポジティブ心理学 第11回 レジリエンス①（こころの回復力とは） 第12回 レジリエンス②（レジリエンスを鍛える） 第13回 レジリエンス③（ネガティブな捉え方を変える） 第14回 講義全体の整理とまとめ 第15回 質疑応答・試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、書籍やインターネットを使って調べをする（学習時間90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間90分）						
授業方法	講義：資料に沿って講義を行う。また、心理テストやワークなどの体験についてグループまたはペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験60%：臨床心理学の基礎知識に対する理解度、メンタルヘルスに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 平常点40%：各回提出のリアクションペーパーの内容や授業への参加度などを評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	出席重視、私語厳禁						
教科書	なし。 毎回資料を配布する。						
参考書	授業内で適時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	梅野 智美					科目ナンバー	Z51230
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	(1) 臨床心理学に関する基礎知識およびアプローチについて説明することができる【知識・理解】 (2) 自分や周囲のメンタルヘルスに対する興味をより具体的なものとして意識することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 本講義についての概要 第2回 こころの健康とストレス 第3回 思春期のこころの病（統合失調症、うつ病） 第4回 発達障害 第5回 心理テスト①（知能検査、質問紙法） 第6回 心理テスト②（投射法） 第7回 心理療法①（精神分析、来談者中心療法） 第8回 心理療法②（行動療法、認知行動療法） 第9回 心理療法③（家族療法、ブリーフセラピー） 第10回 ポジティブ心理学 第11回 レジリエンス①（こころの回復力とは） 第12回 レジリエンス②（レジリエンスを鍛える） 第13回 レジリエンス③（ネガティブな捉え方を変える） 第14回 講義全体の整理とまとめ 第15回 質疑応答・試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、書籍やインターネットを使って調べをする（学習時間90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間90分）						
授業方法	講義：資料に沿って講義を行う。また、心理テストやワークなどの体験についてグループまたはペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験60%：臨床心理学の基礎知識に対する理解度、メンタルヘルスに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 平常点40%：各回提出のリアクションペーパーの内容や授業への参加度などを評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	出席重視、私語厳禁						
教科書	なし。 毎回資料を配布する。						
参考書	授業内で適時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	梅野 智美					科目ナンバ-	Z51230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	(1) 臨床心理学に関する基礎知識およびアプローチについて説明することができる【知識・理解】 (2) 自分や周囲のメンタルヘルスに対する興味をより具体的なものとして意識することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 本講義についての概要 第2回 こころの健康とストレス 第3回 思春期のこころの病（統合失調症、うつ病） 第4回 発達障害 第5回 心理テスト①（知能検査、質問紙法） 第6回 心理テスト②（投射法） 第7回 心理療法①（精神分析、来談者中心療法） 第8回 心理療法②（行動療法、認知行動療法） 第9回 心理療法③（家族療法、ブリーフセラピー） 第10回 ポジティブ心理学 第11回 レジリエンス①（こころの回復力とは） 第12回 レジリエンス②（レジリエンスを鍛える） 第13回 レジリエンス③（ネガティブな捉え方を変える） 第14回 講義全体の整理とまとめ 第15回 質疑応答・試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、書籍やインターネットを使って調べをする（学習時間90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間90分）						
授業方法	講義：資料に沿って講義を行う。また、心理テストやワークなどの体験についてグループまたはペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験60%：臨床心理学の基礎知識に対する理解度、メンタルヘルスに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 平常点40%：各回提出のリアクションペーパーの内容や授業への参加度などを評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	出席重視、私語厳禁						
教科書	なし。 毎回資料を配布する。						
参考書	授業内で適時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	古典文学史／日本文学史A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学の歴史を学び、それぞれの作品が生み出された歴史的な意味を考察する。						
授業の概要	古典文学がそれぞれの時代にどのように現れ、どのように享受されて来たのか考え、その特徴を講義する。						
到達目標	(1) 古典文学史について理解し、その流れを説明できる。【知識・理解】 (2) 古典文学作品の名称や作者名、その特徴について説明できる。【知識・理解】 (3) 古典文学に対して興味・関心を持って学び、それについて発信し、表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 時代区分と『古事記』『日本書紀』 第2回 『万葉集』 第3回 漢文学の隆盛と勅撰和歌集の成立 第4回 物語文学 第5回 女流日記・随筆 第6回 歴史物語 第7回 説話集 第8回 和歌と歌学 第9回 軍記物語 第10回 能・狂言 第11回 文学の大衆化(浮世草子) 第12回 俳諧と松尾芭蕉 第13回 浄瑠璃と歌舞伎 第14回 和歌と国学 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：古典文学史の流れが理解できるよう、教科書を読んで整理する。(学習時間：2時間) 授業後学習：古典作品の名称や作者名、その特徴について説明できるよう復習する。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義 文学史の展開や古典作品についてディスカッションやプレゼンテーションにも取り組む。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 取り組み姿勢 10% 到達目標(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	範囲を示して、小テストを実施する。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』(文英堂)978-4-578-27192-5						
参考書	適宜、授業中に提示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	茶道文化と美術／茶道文化を学ぶ／茶道史						
担当教員	守屋 雅史					科目ナンバ-	J72500
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本における喫茶文化の歴史の変遷と、喫茶における美意識や精神性の形成と展開を概観する。						
授業の概要	今日世界では様々な「お茶」が飲まれている。中でも日本は中国の喫茶文化の大きな影響を三度も受けながら、「茶を喫すること」を特別な芸能にまで昇華させてきた。文芸や仏教との関わりの中で「喫茶」に関する美意識や精神性をとぎすませ、喫茶空間としての茶室の形態を整えながら喫茶に適した道具類も選定してきた。奈良期末から始まる日本の喫茶文化の歴史的な変遷を中心に、美意識や精神性の推移にも留意しながら、日本の伝統文化の特質を美術の視点とともに考察する。						
到達目標	(1) 関連する様々な事象の知識とともに、「喫茶」における日本の伝統文化のあり方や美的な傾向について深く理解することができる。【知識・理解】 (2) 「茶の湯」や「煎茶」という芸能を切り口に、日本の伝統文化の特色を考察し、次世代の人々や諸外国の人々に紹介することができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 インタロダクションー「お茶」とは何かー 第2回 中国唐代の「煮茶」ー陸羽と盧全、法門寺出土茶器ー 第3回 奈良末～平安期の「茶」ー嵯峨天皇と季御読経ー 第4回 中国宋代の「点茶」と鎌倉期の「茶」ー明菴栄西と金沢文庫文書ー 第5回 南北朝・室町期の「茶」ー会所の茶、茶寄合(闘茶)、門前の茶屋ー 第6回 「茶の湯」の始まりと茶の湯道具ー珠光と武野紹鷗ー 第7回 「茶の湯」の大成と「侘教寄」ー御茶湯御政道と千利休ー 第8回 武家の「茶の湯」の展開ー古田織部・金森宗和・小堀遠州・片桐石州ー 第9回 公家の「茶の湯」の展開ー後水尾天皇から近衛家熙までー 第10回 茶道の成立と家元制度ー千宗旦と三千家ー 第11回 中国元明清時代の「泡茶」と日本の「煎茶」の始まり 第12回 煎茶文化の展開ー売茶翁高遊外、文人茶、宗匠茶ー 第13回 煎茶道具と茗識図録の時代 第14回 「茶の湯」の近代化と近代数寄者の登場 第15回 茶道文化と美術のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：第1回の授業で指示された、毎授業ごとの教科書の指定ページを读了し、図書館にある下記の参考書などを用いて、各回の授業のテーマに関する下調べをしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：ラインマーカーなどを用いて、配布したレジメのプリントの重点事項を確認し整理しておく。(学習時間：2時間) なお、日常生活の中で、近隣の博物館・美術館で開催される「喫茶に関する歴史や美術」などの展覧会を観覧すること、「お茶」に関連した新聞記事やテレビの特別番組などを視聴すること、「喫茶」に関する疑問点を機会のある時に質問して理解しておくことなども、授業外の学習における大切な取り組みである。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づく講義を行なう。必要に応じて受講生の理解を深めるために、PCのプレゼンテーションソフトやインターネットを利用して、関連する内容の静止画像や動画などを表示・放映する。また、博物館に関連する新聞記事などの輪読、Q&A方式の双方向授業、グループやペアによる討議なども、時間との兼ね合いを見ながら実施してゆく。 なお、毎授業ごとに教科書の指定箇所に関するリアクションペーパーを用いた小テストを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：授業で扱った講義内容に関して、主として到達目標(1)の【知識・理解】の観点から評価する。 レポート15%：出題した課題に対する、内容の整理、自身のコメントや疑問点などの記述に対して、主として到達目標(2)の【汎用的技能】の観点から評価する。 平常点15%：授業や質疑応答への意欲、リアクションペーパーのコメントなどに関して、総合的に判断して評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問は授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。						
履修上の注意	(1) 出席が授業回数数の3分の2以上になるように心がけること。 (2) 配布したレジメのプリントはA4版ポケットファイル(20ポケット)に綴じて、毎回の授業に持参すること。 (3) レポートとして、近隣の博物館等の茶の湯などの展覧会を見学したうえで内容をまとめる課題を出す場合があり、その際は交通費や入館料等は受講生の自己負担である。						
教科書	『千利休の「わび」とはなにか』神津朝夫著 KADOKAWA(角川ソフィア文庫) [2015] ISBN:978-4-04-408009-9 (本体価格:840円+消費税) なお、各回の授業ごとにレジメのプリントを適宜配布する。						
参考書	『茶の湯の歴史』神津朝夫著 角川学芸出版(角川選書455) [2009] ISBN:978-4-04-703455-6 『茶道具の鑑賞と基礎知識』茶道資料館編 淡交社 [2002] ISBN:978-4-473-01862-5 『茶道教養講座⑤ 千利休』八尾嘉男著 淡交社 [2016] ISBN:978-4-473-04135-7 『千利休「天下一」の茶人』田中仙堂著 宮帯出版社(茶人叢書) [2019] ISBN:978-4-8016-0118-5 『淡交社50周年記念出版 茶道学大系』(全11巻) 淡交社 [1999-2001] ISBN:978-4-473-01661-4 ほか 『茶道聚錦』(全13巻) 小学館 [1983-87] ISBN:978-4-093-84001-9 ほか 『茶道具の世界』(全15巻) 淡交社 [1999-2001] ISBN:978-4-473-01701-7 ほか 『煎茶道具名品集』小川後楽著 淡交社 [2003] ISBN:978-4-473-03104-7						



科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	津田 翔太郎					科目ナンバ-	Z51090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会的なものに関するさまざまなテーマをとおして、社会学の基本的な考え方を理解すること						
授業の概要	「社会」とは、普段はほとんど意識しないのに、間違いなく、いつでもどこでも人を「縛って」いるものである。この「縛り」は、重荷になる時もあれば、心身を軽くしてくれる時もある。この授業では、そんな「社会」の招待を一つずつ知っていくことで、「縛り」に振り回されないよう、自分なりに「縛り」と向き合えるようになることを目的とする。						
到達目標	1. 社会とはどのようなものか、社会学とはどのような学問について、説明することができるようになること。(知識・理解) 2. 自分たちがいま生きている現代社会について、社会学の観点から考えることができるようになること。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 イントロダクション：社会学とはどのような学問か 第2回 自己と他者の社会学(1)：若者の他者関係 第3回 自己と他者の社会学(2)：アイデンティティ 第4回 多様な性の社会学：ジェンダー・セクシャリティ 第5回 労働の社会学(1)：日本的雇用システムのゆらぎ・格差 第6回 労働の社会学(2)：労働の今日的な特徴・課題 第7回 消費の社会学：現代的な消費のスタイル 第8回 家族の社会学(1)：家族 第9回 家族の社会学(2)：恋愛・結婚 第10回 教育の社会学：学校教育の機能と課題 第11回 地域の社会学：地域社会の課題と解決に向けた取り組み 第12回 グローバル化の社会学：グローバル化とエスニシティ 第13回 メディアの社会学(1)：メディアの歴史 第14回 メディアの社会学(2)：現代的なメディア・コミュニケーション 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：前回の授業内容を復習しておくこと。(学習時間：90分) 授業後学習：参考書および授業内で紹介した資料について、適宜自分で読んでおくこと。(学習時間：90分)						
授業方法	講義形式で行います。						
評価基準と評価方法	試験70%：記述・論述式(60分)。到達目標1と2に関する到達度を確認する。 平常点30%：各回の授業で配布するリアクションペーパーで授業内容の理解度と見解を確認する。						
履修上の注意	授業は配布プリントを用いて行いますが、要点を口頭・パワーポイント・板書等を用いて説明しますので、必要に応じてノートを取るようになしてください。						
教科書	なし。						
参考書	・「大学生のための社会学入門／篠原清夫・栗田真樹：晃洋書房、2016、ISBN:9784771027176」 ※購入の必要はありません。 ・その他、授業中に適宜指示します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	津田 翔太郎					科目ナンバ-	251090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会的なものに関するさまざまなテーマをとおして、社会学の基本的な考え方を理解すること						
授業の概要	「社会」とは、普段はほとんど意識しないのに、間違いなく、いつでもどこでも人を「縛って」いるものである。この「縛り」は、重荷になる時もあれば、心身を軽くしてくれる時もある。この授業では、そんな「社会」の招待を一つずつ知っていくことで、「縛り」に振り回されないよう、自分なりに「縛り」と向き合えるようにすることを目的とする。						
到達目標	1. 社会とはどのようなものか、社会学とはどのような学問について、説明することができるようになること。(知識・理解) 2. 自分たちがいま生きている現代社会について、社会学の観点から考えることができるようになること。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 イントロダクション：社会学とはどのような学問か 第2回 自己と他者の社会学(1)：若者の他者関係 第3回 自己と他者の社会学(2)：アイデンティティ 第4回 多様な性の社会学：ジェンダー・セクシャリティ 第5回 労働の社会学(1)：日本の雇用システムのゆらぎ・格差 第6回 労働の社会学(2)：労働の今日的な特徴・課題 第7回 消費の社会学：現代的な消費のスタイル 第8回 家族の社会学(1)：家族 第9回 家族の社会学(2)：恋愛・結婚 第10回 教育の社会学：学校教育の機能と課題 第11回 地域の社会学：地域社会の課題と解決に向けた取り組み 第12回 グローバル化の社会学：グローバル化とエスニシティ 第13回 メディアの社会学(1)：メディアの歴史 第14回 メディアの社会学(2)：現代的なメディア・コミュニケーション 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：前回の授業内容を復習しておくこと。(学習時間：90分) 授業後学習：参考書および授業内で紹介した資料について、適宜自分で読んでおくこと。(学習時間：90分)						
授業方法	講義形式で行います。						
評価基準と評価方法	試験70%：記述・論述式(60分)。到達目標1と2に関する到達度を確認する。 平常点30%：各回の授業で配布するリアクションペーパーで授業内容の理解度と見解を確認する。						
履修上の注意	授業は配布プリントを用いて行いますが、要点を口頭・パワーポイント・板書等を用いて説明しますので、必要に応じてノートを取るようになしてください。						
教科書	なし。						
参考書	・「大学生のための社会学入門／篠原清夫・栗田真樹：晃洋書房、2016、ISBN:9784771027176」 ※購入の必要はありません。 ・その他、授業中に適宜指示します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会心理学						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	Z51110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	個人、対人、集団に関する社会心理学の知見、理論を習得する。						
授業の概要	社会心理学とは、個人と状況の相互作用によって人間の行動がどのように変わるのかを検討する学問である。その対象は、自分自身が日常生活を送る中で感じる身近な疑問から重大な社会問題まで、多岐に渡る。本講義では実験、調査などのアクティブ・ラーニングも交えながら、人間の心理に影響を与える要因を、個人・対人・集団(大衆)のレベルに分けて解説していく。						
到達目標	社会心理学的な視点から、人の社会的行動や心の状態を把握するための適切な方法について理解できる。【知識・理解】 自らの生活の中で、社会心理学の知見を生かすことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 社会心理学とは 第2回 社会心理学の方法・社会行動の原則 第3回 対人認知、 第4回 ステレオタイプと偏見 第5回 帰属 第6回 印象形成 第7回 自己 第8回 社会的比較 第9回 対人魅力 第10回 ストレス 第11回 文化 第12回 キャリア・ジェンダー 第13回 エコロジー 第14回 前期授業の補足・質疑応答・調査と実験結果のフィードバック 第15回 授業のまとめ・前期試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義形式 アクティブ・ラーニング 毎回の授業内容について、座席の近いペア同士が1分間ずつで説明						
評価基準と評価方法	平常点(授業から学んだことをまとめた小レポート) 30%， 定期試験 70%						
履修上の注意	座席指定 教科書は、毎回必携						
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」 土肥伊都子 (編著) 保育出版社 2014						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会福祉概論						
担当教員	中村 和子					科目ナンバ-	251130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	身近な生活をテーマにした基本的な社会福祉制度の習得と「快い生活」とは何かを考える。						
授業の概要	身近な日常生活をテーマに社会福祉の基本的な制度や知識を講義形式で行う。また、講義の中で「どう生きていくか」、「幸せとは何か」、そして「よりよい生活の確立」についてグループディスカッションや事前学習として新聞スクラップを用いて各自でその記事に疑問を持ち、考え、調べ、そしてグループの中で発表することで更に授業のテーマの知識を養う。受講生がボランティアについての自分の価値観を考えるために、社会福祉の領域でのボランティア活動の経験をした事がある学生に紹介してもらうことを実施する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 講義で学んだ社会福祉の知識と現状、そしてその基本的な制度を自分や周囲の人の生活に応用できる【知識・理解】。</li> <li>(2) 社会福祉の領域での「快い生活」、「よりよい生活の確立」について考え、自分のその考えを他者に表現できる【知識・理解】。</li> <li>(3) 配布された新聞記事のスクラップを用いて社会福祉の問題に疑問を持ち、考え、調べ、対策や改善を考えグループディスカッションで自分の考えや意見を他者に論じることができる。また、他者の意見を尊重しながら議論できる【態度・志向性】。</li> </ol>						
授業計画	第1回 「履修上の注意」の説明、快い生活とは 第2回 「よりよい生活の確立」（社会福祉概念）、戦後の社会福祉の歴史－第2次世界大戦後～昭和の歴史 第3回 戦後の社会福祉の歴史－平成と今後（続き）、ボランティアとは 第4回 経験したことがあるボランティア活動の紹介とQ&Aの時間 第5回 家庭・家族と福祉1－結婚の動向と家族、出産 第6回 家庭・家族と福祉2－性と生から考える 第7回 雇用と福祉－正規雇用と非正規雇用 第8回 社会保障1－雇用保険、医療保険 第9回 社会保障2－介護保険と介護 第10回 事前学習を用いたグループディスカッション 第11回 高齢者の生活1－高齢者の生活 第12回 高齢者の生活2－公的年金（社会保障）と歴史 第13回 障がい者の雇用1－ジョブ・コーチ制度 第14回 障がい者の雇用2－身体障害者補助犬法 第15回 まとめテスト、グループディスカッション、達成目標の自己評価						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前事後学習：事前に配布された質問用紙に沿って考え、記述し、ボランティア活動の経験がある学生は紹介の準備をし、経験がない学生は質問を考える。紹介中にメモを取ったことを用いて事後学習の質問に回答する。（学習時間1時間） 新聞記事のスクラップの事前学習：事前に配布された記事と説明用紙を用いて、記事について疑問を持ち、それについて考え、図書館等で調べ、自分の考えや意見も記述する。グループ内で自分の考えを論じるための準備する。グループディスカッション後の事後学習の質問から自分の発表について振り返る。（4時間）						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 知識習得のための講義型形式と考えを論じる、他者の考えから学ぶためのグループディスカッションや発表のアクティブラーニング型形式。</li> <li>(2) 視覚教材学習（DVD、著書、新聞スクラップ、写真、資料）</li> </ol>						
評価基準と評価方法	まとめテスト 40%：授業態度の確認と生活で応用できるための知識習得と授業の理解度の確認と到達目標1に関する到達度の確認。受験終了後に、簡単に口頭で解答を伝える。 平常点 60点：ボランティア活動の経験の紹介時と新聞記事のスクラップのグループディスカッションでは積極的に参加し、ディスカッションと事前事後学習で自分の考えや調べたことを具体的に調べ、述べているかを確認する。そして、他者の考えを尊重し自分の考えを広げているかも事後学習とグループディスカッション中の参加態度も評価する。到達目標2と3に関する到達度の確認。フィードバックは、グループの書記用紙と視聴覚の学びのプリントについては、印を付けるかコメントを記述して返却する。授業中に匿名で内容を紹介する。事前事後学習は、クラスで全体の評価とコメントを伝える。						
履修上の注意	授業中に各テーマについてのグループディスカッション、配布物、期限付きの提出物があるので毎回出席することを勧める。11回以上の出席（15分以上の遅刻・早退は欠席扱いにする）以上の出席がないと最終成績は不可（受験資格を失う）が付く。都合上により欠席する場合は、次の出席時に必ず欠席時に配布物やグループディスカッションが行われたか確認する。グループディスカッションに欠席した場合は、最終成績で減点がある（テーマによっては、減点はあるがディスカッションの代替が可能な場合もあるため）。提出物を「提出した」、ディスカッションに出席した、参加しただけでは評価基準から高得点は得られない。提出期限に遅れた場合は、2割減点とする。						
教科書	使用しない。						

参考書	(1) 「星になったぼくのおとうと」 鮫島浩二、アスペクト (2) 「引退犬命の物語」 沢田俊子、学研 (3) 「「時が止まった部屋」 小島美羽、原書房
-----	--

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	消費生活論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U12110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	目まぐるしく変化する状況を消費生活の視点から捉え、消費者と企業（生産者も含む）の双方向から理解することで持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立を目指す。						
授業の概要	現代の私たちの消費生活は、他人が生産した「モノ」に依存している。また、近年極めて豊かで便利な「サービス」も受けられるようになった。その反面、欠陥商品、悪質商法などによるトラブルの多発、インターネットを介した電子商取引に関係した消費者被害も続出している。この講義では、現在の消費生活の実態を把握した後、発生したトラブルに対し消費者、行政、企業がどのように対処したかを明らかにし、安全で真に豊かな消費生活を確立するための礎としたい。						
到達目標	①経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。（知識・理解） ②自らの消費者行動を振り返り、身の回りの変化に関心を高めることができる。（態度・志向性） ③消費者の権利と責任を考え、実践していくために必要な知識を身につけることができる。（態度・志向性） ④持続可能な社会の形成プロセスを描くことができる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回 個人としての消費者（家計の現状から） 第2回 消費生活の視点（知覚：人の数だけ現実が存在する） 第3回 生活における経済管理（学習：観察学習・・・動機づけ） 第4回 財・サービスの選択（記憶：思い出は美化される？） 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者（態度：好き・嫌いはどのように生まれるのか） 第6回 意思決定—なぜそれを買ったのか— 第7回 人の好みの違いと消費者の権利・責任 第8回 コミュニケーション—発信源効果とメッセージ効果— 第9回 店頭マーケティング—売れるお店はどうやってつくる？— 第10回 社会的存在としての消費者：アイデンティティ 第11回 家族の購買意思決定とライフサイクル、子供の社会化 第12回 集団—なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？— 第13回 ステータス—なぜモノが集団のシンボルになるのか？— 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動（サブカルチャー） 第15回 儀式としての消費（文化）と環境問題（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】常に新聞やテレビを見て情報を集め、現状の問題点を考え、まとめる。（学習時間：2時間） 【授業後】授業後に指示された課題をレポートにて作成する。→松蔭manabaで提出。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義 ・課題解決型学修を中心に行う。 【実務経験のある教員等による授業】 マーケティング&リサーチ関連事業の代表として消費行動を分析した経験から家族の購買行動および意思決定の仕方、リスクマネジメントなどに対する事例研究をする。						
評価基準と評価方法	・中間テスト（15%） ・授業内での提出物（15%）レポート課題も含む ・期末試験（70%）などによる総合評価						
履修上の注意	①新聞必読 ②授業中の携帯電話、メール、居眠り、20分以上の遅刻・途中退出など、厳しく対処する。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は、受講資格を失う。 ③アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。						
教科書	松井剛・西川英彦編著『1からの消費行動』、2016年、中央経済社						
参考書	随時、授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	食物と健康						
担当教員	原 正之					科目ナンバ-	Z61020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物の摂取、消化、吸収、代謝、しくみの解説と、現代の食物や健康維持に関わる話題（安全に健やかに食べる こと、栄養を摂ること、とは何か？）。						
授業の概要	前半では食物の消化と吸収のしくみや、血液による栄養分の循環と老廃物の排泄について解説する。次に、蛋白質、糖質、脂質の代謝とこれに影響を与えるビタミンやホルモンの役割について解説し、さらに体外から取り込んだ薬物や異物の代謝についても触れる。代謝についてのこれらの基礎的な知識をふまえた上で、後半では脳神経系を介した食欲の調節機構、エネルギー代謝、人体の概日リズム（体内時計）、健康食品、食品の安全性についての話題など、いくつかの関心の高いトピックスについて内容を解説する。						
到達目標	栄養学の基礎的な知識や概念を理解する事で、健康な食生活や食品の安全性について、氾濫する宣伝に惑わされずに、科学的に正確な情報を求め、考える習慣を身につける[態度・志向性]。日常生活での健康維持にも関係のある問題として自ら考えることができる。[態度・志向性]						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食物の消化と吸収のしくみ</li> <li>2. 栄養分の循環と老廃物の排泄</li> <li>3. 蛋白質の代謝</li> <li>4. 糖質の代謝</li> <li>5. 脂質の代謝</li> <li>6. 薬物や異物の代謝</li> <li>7. ミネラルの代謝</li> <li>8. ビタミンの役割</li> <li>9. ホルモン・自律神経の働きと恒常性</li> <li>10. 食欲の調節機構</li> <li>11. エネルギー代謝</li> <li>12. 健康食品について</li> <li>13. 生活習慣病</li> <li>14. 飲酒と喫煙</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞（インターネット上の報道も含む）などで報道される医療制度、医療技術についての記事に良く目を通して、必要であれば記録しておく（学習時間：週3時間程度）。授業で配布した資料を用いて復習を行う（学習時間：週1時間程度）。必要に応じて、講義内容に関連した調査や自分の意見についてメモなどの提出を求める事がある。授業方法：資料等を配付して講義を行う。主に資料（プリント）に記載された事項の説明を中心に授業を進めるが、自分の意見について簡単なメモの提出を求める事がある。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。主に資料（プリント）に記載された事項の説明を中心に授業を進めるが、自分の意見について簡単なメモの提出を求める事がある。						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度、積極性など）50%と課題レポート提出50%により、総合的に評価する。						
履修上の注意	参考図書としては、健康食品などについてのいわゆるハウツー本等ではなく、食品科学や栄養学の基礎的な解説書や教科書を読むことを薦める。厚生労働省、農林水産省、内閣府食品安全委員会等のホームページも参考になる場合がある。						
教科書	教科書は特に指定しない。						
参考書	基礎栄養学 補訂版（池田彩子、鈴木恵美子、脊山洋右、野口忠、藤原洋子 編、新スタンダード栄養・食物シリーズ9、東京化学同人 ISBN978-4-8079-1681-8）。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	諸芸術の交流／比較文化IA						
担当教員	西岡 恒男					科目ナンバ-	A32010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アラン・レネの映画作品における諸芸術の影響とそのユニークな表現方法						
授業の概要	ヌーヴェル・ヴァーグを代表するフランスの映画作家 アラン・レネ (Alain Resnais, 1922-2014) は、絵画や演劇、シュールレアリスムをはじめとする諸芸術の作品をつねに取り込みながら、ユニークな映画を手がけてきたことで知られる。だが、たとえば彼の短編作品『ヴァン・ゴッホ』(1947)におけるように、わざわざ映画の題材にしくなくても、絵画は美術館でしか鑑賞すればよいのではないか、という疑問が浮かぶかもしれない。これに対してレネは、もともとなる作品を彼独自の映像表現に落とし込んで、映画として魅力的になるように制作してきた。それは他の芸術作品を無造作に扱うことではなく、むしろ映画を通じてその価値を最大限に引き出すことであった。そこで本講義では、レネ作品全般を取り上げながら、彼のオリジナリティあふれる映画の表現方法を観察し、映画のなかで諸芸術がどのように活用されるのかを考察する。また、講義の導きの糸として、ドイツの哲学者・ガダマー (Hans-Georg Gadamer, 1900-2002) の美学理論も適宜参照・解説する予定である。						
到達目標	1. アラン・レネのユニークな作風を通じて、映画における表現方法の豊かさを知ることができる。【知識・理解】 2. あるジャンルはつねに他のジャンルと影響関係にあることを理解することで、ものごとを一面的ではなく、多角的・領域横断的に思考する態度を身につけることができる。【態度・志向性】 3. 他者の作品を理解・尊重・称賛することが、他者に対して共感する倫理的な行為であると意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 映画作家 アラン・レネはどういう人物か？ 第2回 「第七芸術」としての映画：諸芸術の交流はどのように行われてきたか？ 第3回 絵画を映画化する：『ゲルニカ』・『ゴッホ』 第4回 映画と彫刻：『彫像もまた死す』 第5回 建築と都市計画 (1)：『ヒロシマ・モナムール』 第6回 建築と都市計画 (2)：『ミュリエル』 第7回 光と色彩の使い方 (1)：『死に至る愛』 第8回 光と色彩の使い方 (2)：『六つの心』『風にそよぐ草』 第9回 レネ作品における影の使い方 第10回 演劇作品を映画化する (1)：『メロ』 第11回 演劇作品を映画化する (2)：『スモーキング』『ノースモーキング』 第12回 演劇作品を映画化する (3)：『あなたはまだ何にも見ていない』 第13回 映画と流行歌：『恋するシャンソン』 第14回 レネ作品と芸術 (1)：画家 スーラと比較する 第15回 レネ作品と芸術 (2)：写真家 アジェと比較する						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業前に参考資料を熟読しておくこと。資料は配布するか、松蔭manabaにアップする。授業の理解を深めるために、レネ作品を事前に鑑賞するか、彼の作品について種々の媒体で調べること。(学習時間：2時間) 授業後学習：松蔭manabaを活用したフィードバック学習に取り組むこと。(学習時間：2時間)						
授業方法	映画作品の講義を行う。毎回リアクションペーパーを要求する。また、松蔭manabaでのフィードバック学習について、授業内で小テストを設ける。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー 30%、松蔭manaba 30%、レポート 40% リアクションペーパーでは、授業内容の理解度をチェックする。また、リアクションペーパーに書かれたコメント・質問については、翌週の授業内で解説する。						
履修上の注意	1. 前後半の授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位認定を行わない。 2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 3. レポート未提出者は原則単位認定を認めない。 4. レポート提出についての詳細は授業内で説明する。						
教科書	教科書はないが、毎回プリントを配布するのでこれを教科書代わりとする。						
参考書	中条省平『フランス映画史の誘惑』、集英社新書、2003、ISBN 4-08-720179-1 矢橋透『ヌーヴェル・ヴァーグの世界劇場—映画作家たちはいかに演劇を通して映画を再生したか』、フィルムアート社、2018、ISBN:978-4845917143 ミシェル・マリ『ヌーヴェル・ヴァーグの全体像』、矢橋透訳、水声社、2014、ISBN:978-4801000155 ジャック・オーモン他『映画理論講義—映像の理解と探究のために』、武田潔訳、勁草書房、2000、ISBN:978-4-326-80043-8 ジャン・グロンダン『解釈学』、末松壽／佐藤正年訳、白水社(文庫クセジュ1021)、2018、ISBN:978-4-560-51021-6						



参考書	ハンス=ゲオルク・ガダマー『真理と方法 I 哲学的解釈学の要綱』、轡田収他訳、法政大学出版局（叢書・ユニベルシタス）、1986、ISBN:978-4-588-00175-8
-----	--

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	神経・生理心理学／生理心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。						
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がドキドキしたり、胃が痛くなったりするということは、心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体はどこにも存在しないのだろうか。この授業では、心と身体の関係について、古典的ともいえる知見から、最新の脳科学研究の成果に至るまで、数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに、心のありかについて自らの考えをまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。						
到達目標	①脳神経系の構造及び機能について論じることができる。 ②記憶、感情等の生理学的反応の機序について論じることができる。 ③高次脳機能障害の概要について論じることができる。 ④心と身体関係を調べる神経・生理学的な方法について論じることができる。						
授業計画	第1講 神経・生理心理学とは 第2講 脳 ～あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？～ 第3講 視覚 ～なぜものが見えるのか～ 第4講 顔認識 ～なぜアヒル口が流行ったのか～ 第5講 知覚の統合 ～青い食べ物でダイエット？～ 第6講 記憶1 ～記憶の亡霊～ 第7講 記憶2 ～マインドマップを描こう～ 第8講 知能 ～脳トレで頭が良くなる？～ 第9講 発達 ～赤ちゃんはワンダーランド～ 第10講 感情 ～泣くから悲しい？～ 第11講 恋愛 ～愛は麻薬？それとも絆？～ 第12講 ストレス ～癒しの脳科学～ 第13講 人間らしさ ～脳の中のもうひとりの私～ 第14講 ココロとカラダ ～心はどこにある？～ 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。授業の最後にリアクションペーパーの記述を求める。リアクションペーパーに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー30%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）。到達目標①②③に関する到達度の確認。 期末試験70%：到達目標④に関する到達度の確認。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	251100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	心の働きの基礎を学ぶ						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識である。しかし、心と意識は同じではない。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところでさまざまな行動として表れる。それゆえ、心と行動について学ぶ必要がある。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っている。この授業では心理学を概観し、普段あたりまえのように思っている心の働きの不思議について学ぶ。						
到達目標	(1) 心の基本的な働きについて説明できる。【知識・理解】 (2) 他者と自分の心についての理解が深まる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：「こころ」って何？ 第2回 対人関係の心理学(1)：他者から影響を受けるこころ 第3回 対人関係の心理学(2)：他者に影響を及ぼすこころ 第4回 パーソナリティの心理学(1)：他者と私はどう違う？ 第5回 パーソナリティの心理学(2)：「性格」って何？ 第6回 発達の心理学(1)：子どものこころ 第7回 発達の心理学(2)：大人のこころ 第8回 悩みの心理学(1)：こころのトラブルって何？ 第9回 悩みの心理学(2)：トラブルへの対処法 第10回 知覚の心理学：身の回りの世界を捉えるこころ 第11回 認知の心理学(1)：記憶するこころ 第12回 認知の心理学(2)：考えるこころ 第13回 学習の心理学(1)：新しい行動を身につけるこころ 第14回 学習の心理学(2)：行動を変化させるこころ 第15回 授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には各回の授業テーマについて関連する文献などに目を通しておくこと（2時間）。 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること（2時間）。						
授業方法	講義を基本とする。適宜、グループワークやグループディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度30%、期末試験70% 授業態度：授業に取り組む姿勢、グループディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度、適宜提出を求めるリアクションペーパーの記述内容的確さ等を評価する。到達目標（1）（2）に関する到達度の確認。 期末試験：授業を通じた自他の心の働きについての理解度を評価する。到達目標（1）（2）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：リアクションペーパーの記述、質問等について、翌週に説明、解説を行う。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。						
参考書	適宜授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	251100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	心の働きの基礎を学ぶ						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識である。しかし、心と意識は同じではない。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところでさまざまな行動として表れる。それゆえ、心と行動について学ぶ必要がある。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っている。この授業では心理学を概観し、普段あたりまえのように思っている心の働きの不思議について学ぶ。						
到達目標	(1) 心の基本的な働きについて説明できる。【知識・理解】 (2) 他者と自分の心についての理解が深まる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：「こころ」って何？ 第2回 対人関係の心理学(1)：他者から影響を受けるこころ 第3回 対人関係の心理学(2)：他者に影響を及ぼすこころ 第4回 パーソナリティの心理学(1)：他者と私はどう違う？ 第5回 パーソナリティの心理学(2)：「性格」って何？ 第6回 発達の心理学(1)：子どものこころ 第7回 発達の心理学(2)：大人のこころ 第8回 悩みの心理学(1)：こころのトラブルって何？ 第9回 悩みの心理学(2)：トラブルへの対処法 第10回 知覚の心理学：身の回りの世界を捉えるこころ 第11回 認知の心理学(1)：記憶するこころ 第12回 認知の心理学(2)：考えるこころ 第13回 学習の心理学(1)：新しい行動を身につけるこころ 第14回 学習の心理学(2)：行動を変化させるこころ 第15回 授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には各回の授業テーマについて関連する文献などに目を通しておくこと（2時間）。 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること（2時間）。						
授業方法	講義を基本とする。適宜、グループワークやグループディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度30%、期末試験70% 授業態度：授業に取り組む姿勢、グループディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度、適宜提出を求めるリアクションペーパーの記述内容的確さ等を評価する。到達目標（1）（2）に関する到達度の確認。 期末試験：授業を通じた自他の心の働きについての理解度を評価する。到達目標（1）（2）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：リアクションペーパーの記述、質問等について、翌週に説明、解説を行う。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。						
参考書	適宜授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ジェンダー論入門／女性論I						
担当教員	松並 知子					科目ナンバ-	Z51240
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーに関する理論や概念を理解し、日常生活におけるジェンダー問題を考察する。						
授業の概要	ジェンダーやセクシュアリティに関する理論や問題について概説し、基本的な知識を身につける。また、日本社会における女性を取り巻く環境や問題について考察し、日常生活の中にジェンダーがどのように浸透しているかを見抜く視点を共有する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジェンダーやセクシュアリティに関する概念や問題を理解し知識を身につけることができる（知識・理解）</li> <li>2. 日本社会の現状を理解し、自分の問題として、考えることができる（知識・理解）</li> <li>3. 人々の心の中にある固定観念や偏見についても考察することができる（態度・志向性）</li> <li>4. ジェンダー問題について説明したり、ディスカッションすることができる（汎用的技能）</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：ジェンダーとは？</li> <li>2. 女とは？男とは？セクシュアリティとは？</li> <li>3. 女らしさ、男らしさはどのようにつくられるか？（1）～家庭の中のジェンダー～</li> <li>4. 女らしさ、男らしさはどのようにつくられるか？（2）～学校の中のジェンダー～</li> <li>5. ジェンダーの視点から見た世界の中の日本</li> <li>6. 日本社会におけるジェンダー問題</li> <li>7. 雇用問題におけるジェンダー：女性が抱える問題</li> <li>8. LGBTs（1）～SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション～</li> <li>9. LGBTs（2）～性自認について（性別違和、性同一性障害）～</li> <li>10. LGBTs（3）～性的指向について～</li> <li>11. 恋愛とジェンダー：デートDVと恋愛依存症（1）</li> <li>12. 恋愛とジェンダー：デートDVと恋愛依存症（2）</li> <li>13. メンタルヘルスとジェンダー（1）～摂食障害～</li> <li>14. メンタルヘルスとジェンダー（2）～うつ：自分らしさと女らしさの葛藤～</li> <li>15. 筆記試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ジェンダーをキーワードに日頃からニュースなどに興味を持ち、情報を得ていること。また参考文献などを使って下調べをしておくこと（学習時間：2時間）。授業中に配布した資料やプリントを使って復習を行うこと。また、授業内で紹介した参考文献などを活用して理解を深めること（学習時間：2時間）。						
授業方法	基本的に講義形式で進めるが、視聴覚教材や心理テスト、グループ・ディスカッションなどの課題をとり入れることにより、自分自身で考える機会を持つ。時折、授業の後にミニレポートを提出してもらう。課題に対し、きちんと回答している場合は平常点が加点される。また、課題などについて意見を求めることも多いので、積極的な受講態度が望まれる。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度・参加度（ミニレポート、発言、ディスカッション参加態度）40%</li> <li>・最終授業で実施する筆記試験 60%</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業初回到授業内容と授業計画を説明するので、できる限り、出席すること。</li> <li>・私語は厳禁、携帯電話は鞆にしまうなど、ルールを守る人に限る。</li> </ul>						
教科書							
参考書	「ジェンダーの心理学ハンドブック」青野篤子・赤澤淳子・松並知子、ナカニシヤ出版 「アクティブラーニングで学ぶジェンダー」青野篤子、ミネルヴァ書房						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と健康						
担当教員	西川 央江					科目ナンバ-	Z61010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	女性の心身の健康についての正しい知識と情報を得て、生涯にわたって女性の健康を維持増進させていくことについて学ぶ。						
授業の概要	健やかに生きるという事は、すべての人が互いの人権を尊重し、能力を十分に発揮することである。特に女性は妊娠・出産という男性と異なる特質を有しているため、心身の両面からの配慮が必要になってくる。本授業では、基礎知識として健康概念を学習し、その理解を前提に、女性の生涯を通じた健康、さらには次世代の健康な育成についてさまざまな観点から考える。そして、学んだ正しい情報・知識を基に、女性としての自身の健康をより向上させる実際の能力を身につけることを学ぶ。						
到達目標	1. 女性の健康課題について理解を深めることができる【知識・理解】 2. 女性の健康の保持と増進に必要な知識・情報について理解を深めることができる【知識・理解】 3. 自分の健康の課題を見つけることができ、それに対して愚痴的な改善方法を実施できるようになる【知識・理解・汎用的技能】						
授業計画	第1回 女性の健康の概念と基本理念(リプロダクティブ・ヘルス/ライフ) 第2回 生活習慣と女性の健康(①食事・排泄) 第3回 生活習慣と女性の健康(②運動・睡眠) 第4回 生涯を通じた女性の健康(①思春期と月経) 第5回 生涯を通じた女性の健康(②月経に関するトラブル) 第6回 生涯を通じた女性の健康(③妊娠・出産) 第7回 生涯を通じた女性の健康(④避妊・中絶) 第8回 生涯を通じた女性の健康(⑤性感染症予防) 第9回 生涯を通じた女性の健康(⑥子宮頸がん・乳がん・大腸がん) 第10回 生涯を通じた女性の健康(⑦ドメスティックバイオレンス) 第11回 生涯を通じた女性の健康(⑧性暴力被害) 第12回 生涯を通じた女性の健康(⑨タバコ・薬物の影響) 第13回 生涯を通じた女性の健康(⑩女性アスリートの健康) 第14回 生涯を通じた女性の健康(⑪メンタルヘルス)まとめ試験 第15回 講義全体の学習内容の総復習						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：シラバスを参考に次の講義内容に関する情報をメディアや文献から得る。そして、自分自身の健康状態を観察し、健康課題を見つける。(学習時間2時間) 授業後学習：講義内容を振り返りまとめる。そして、講義内容をもとに自分自身の健康を保持増進させる方法を実践する。(学習時間2時間)						
授業方法	講義：テーマごとに女性の健康について、視聴覚教材を用いた講義を行う。テーマに対して、自分の女性としての健康課題を点検し、講義内容を参考に健康の保持増進のために実施することを見出す。						
評価基準と評価方法	まとめ試験60% 授業内での提出物40% まとめ試験：授業で扱った女性と健康についての課題と保持増進について、理解度を評価する。(到達目標1・2に関する到達目標の確認) 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義についてのコメント・質問・課題への自分の考え)の内容・記述の的確さを評価する。(到達目標1・2・3に関する到達目標の確認) 課題に対するフィードバックの方法：まとめ試験については、講義全体の学習内容の総合復習時に講評する。リアクションペーパーの記述に対して翌週の講義時にコメントし、質問に対して開設する。						
履修上の注意	単位認定は出席3分の2以上で行います。自分の健康に関心を持ち、より健康になることを目指して健康管理に留意し、出席してください。						
教科書	テキストの指定はしない。講義時に資料を配布する。						
参考書	講義時に随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバー	Z51260
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、いわゆる親族・相続に関する法律論を素材としながら、女性を取り巻く法律関係について講義を行う。また、問題の解決に必要な限りで、一般的な法学知識（不法行為論や民事訴訟法上の一般的知識など）についても適宜取り扱う。講義では、設例を用いて各種法律問題について具体的イメージを持たせ、その上で教員が学生に質問を発する形式を採る。						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的事項を理解した上で、個別の事案に対し具体的な解決方法を提示・説明することができる。【知識・理解】 また、婚姻・離婚・親子関係等に関わる法律知識を手に入れることによって、将来のキャリア形成や人生設計に関し、具体的なイメージを形成・表現することができる。【知識・理解】						
授業計画	以下の要領で授業を実施する。 第01回 ガイダンス 第02回 婚姻（1）：法律婚の要件 第03回 婚姻（2）：法律婚の効果 第04回 婚姻（3）：事実婚 第05回 離婚（1）：離婚の手続・要件 第06回 離婚（2）：離婚の効果 第07回 中間テスト 第08回 実親子関係（1）：母子関係・父子関係の基本的ルール 第09回 実親子関係（2）：父子関係の応用的ルール 第10回 実親子関係（3）：生殖補助医療等の問題 第11回 養親子関係（1）：普通養子 第12回 養親子関係（2）：特別養子 第13回 人の死と財産の承継（1）：相続 第14回 人の死と財産の承継（2）：遺言 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義は対話型で行われるため、予習はもちろん、以前の講義の内容に関わる部分についても問う場合があり、復習も必要となる。 予習として事前配布プリントの該当箇所を熟読してくること。（100分） 講義受講後は、ノート等を見直し復習を行うこと。まとめノートのようなものを作成することも望まれる。（140分）						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	中間試験（30%）及び期末試験（70%）を総合して評価する。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り（パネル）、パネル学生と教師との対話によって授業を進めるので、学期を通じてパネル役を務め通した者には、期末試験において最大10を加点する。						
教科書	なし。						
参考書	・窪田充見「家族法（第4版）」（有斐閣、2019年）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバ-	Z51260
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、いわゆる親族・相続に関する法律論を素材としながら、女性を取り巻く法律関係について講義を行う。また、問題の解決に必要な限りで、一般的な法学知識（不法行為論や民事訴訟法上の一般的知識など）についても適宜取り扱う。講義では、設例を用いて各種法律問題について具体的イメージを持たせ、その上で教員が学生に質問を発する形式を採る。						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的事項を理解した上で、個別の事案に対し具体的な解決方法を提示・説明することができる。【知識・理解】 また、婚姻・離婚・親子関係等に関わる法律知識を手に入れることによって、将来のキャリア形成や人生設計に関し、具体的なイメージを形成・表現することができる。【知識・理解】						
授業計画	以下の要領で授業を実施する。 第01回 ガイダンス 第02回 婚姻（1）：法律婚の要件 第03回 婚姻（2）：法律婚の効果 第04回 婚姻（3）：事実婚 第05回 離婚（1）：離婚の手続・要件 第06回 離婚（2）：離婚の効果 第07回 中間テスト 第08回 実親子関係（1）：母子関係・父子関係の基本的ルール 第09回 実親子関係（2）：父子関係の応用的ルール 第10回 実親子関係（3）：生殖補助医療等の問題 第11回 養親子関係（1）：普通養子 第12回 養親子関係（2）：特別養子 第13回 人の死と財産の承継（1）：相続 第14回 人の死と財産の承継（2）：遺言 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義は対話型で行われるため、予習はもちろん、以前の講義の内容に関わる部分についても問う場合があり、復習も必要となる。 予習として事前配布プリントの該当箇所を熟読してくること。（100分） 講義受講後は、ノート等を見直し復習を行うこと。まとめノートのようなものを作成することも望まれる。（140分）						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	中間試験（30%）及び期末試験（70%）を総合して評価する。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り（パネル）、パネル学生と教師との対話によって授業を進めるので、学期を通じてパネル役を務め通した者には、期末試験において最大10を加点する。						
教科書	なし。						
参考書	・窪田充見「家族法（第4版）」（有斐閣、2019年）						



科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性とメディア／女性論II						
担当教員	巽 真理子					科目ナンバ-	251250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアにおける女性や男性のイメージとジェンダー規範						
授業の概要	ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティ（多様性）が尊重され、人と社会のかかわりや時代の変化を敏感に察知し、多様な課題に目配りのできる資質や能力がますます求められている現代社会において、ジェンダー視点は不可欠である。本講義では、メディアが女性や男性のイメージをどのように描いてきたかを検証し、その裏にどんな社会構造の問題やジェンダーの固定観念があるのかを探っていく。また、アニメやドラマ、広告など、具体的な映像などを鑑賞しながら考えていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまなメディアにおける女性や男性のイメージを考察し、それを取り巻くジェンダー規範を認識することにより、社会に関わる幅広い教養を身につけることができる（知識・理解）。</li> <li>・自分自身の人生を自らの力で作り上げ、社会的・職業的に自立する態度を身につけることができる（態度・指向性）。</li> </ul>						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メディアとジェンダーをどう学ぶか：メディアリテラシーという視点 第3回 マスメディアとジェンダー（1）職場としてのマスメディア 第4回 マスメディアとジェンダー（2）性別による取り上げられ方の違い 第5回 マスメディアとジェンダー（3）チカンあかんとDV 第6回 雑誌とジェンダー（1）雑誌のしくみ 第7回 雑誌とジェンダー（2）育児雑誌におけるイクメン像 第8回 CMとジェンダー 第9回 映画とジェンダー（1） 第10回 映画とジェンダー（2） 第11回 ジェンダー化される家族と生殖医療技術 第12回 アニメとジェンダー：女性像とグローバルゼーション 第13回 ミニコミとジェンダー：ウーマンリブ～フェミニズムと男性運動 第14回 メディアとジェンダー：ふりかえり 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メディアとジェンダーに関する問題は、社会問題として考えると同時に、「自分ごと」として捉えていくことが重要である。そのため授業前には2時間程度、次回の授業テーマに関連する報道等について積極的に情報収集し、そこにどのようなジェンダー規範が含まれているのかを考察すること。そして授業後には2時間程度、講義内で示した参考図書や文献を読み、授業で取り上げたテーマについて自分自身で議論を深めること。						
授業方法	講義形式。毎回、授業のテーマに合わせたプリントを配布し、ワークシートを実施する。受講生がワークシートに書いた意見は、次の授業で取り上げて他の受講生とも共有し、テーマを更に深く考えていく。						
評価基準と評価方法	期末テスト（60％）・ワークシートなどの平常点（40％）						
履修上の注意	私語厳禁。授業で取り上げるテーマを「自分ごと」として、周りの「あたり前」を疑う視点で考え、積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。 授業内容に関する質問は、メールまたは授業時に受け付ける。						
教科書	特になし						
参考書	巽真理子 2018 『イクメンじゃない父親の子育て—現代日本における父親の男らしさと〈ケアとしての子育て〉』 晃洋書房ほか、授業中に適宜指示する						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子					科目ナンバ-	251040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の児童文学を読む ―冒険物語を中心に―						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の絵本や幼年文学、長編児童文学の冒険物語を中心に、作品のなかで冒険の要素がどのように描かれ、それが子どもにとってどのような意味を持つのかを探る。また作品のなかの「ごっこ」遊びの冒険が登場人物の対立と協調にどのような役割を果たしているかを考察する。さらに作品に描かれる冒険が英米の歴史や社会をどのように反映しているかを探り、舞台となる土地の文化や風物にも触れることで、作品の背景を学ぶ。						
到達目標	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の伝統や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶことができる。また実際に作品の一部を読むことにより、作品に描かれる子どもの個性や心情を分析する力と、作者のメッセージを読み取る洞察力を養うことができる。（知識・理解）						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学と冒険物語について 第2回：英米の絵本における冒険1 昔話を中心に 第3回：英米の絵本における冒険2 さまざまな絵本 第4回：幼年文学 『クマのプーさん』の冒険 第5回：冒険物語のルーツ『ロビンソン・クルーソー』と『宝島』、アーサー・ランサムと『ツバメ号とアマゾン号』シリーズとその舞台について 第6回：『ツバメ号とアマゾン号』における「海賊」と「探検家」 第7回：『ヤマネコ号の冒険』における宝探し 第8回：『長い冬休み』における「北極探検」 第9回：『オオバン・クラブ物語』における鳥類保護 第10回：『海へ出るつもりじゃなかった』におけるリアルな冒険 第11回：『六人の探偵たち』における「探偵(真犯人捜し)」 第12回：『女海賊の島』における中国の女海賊 第13回：『シロクマ号となぞの鳥』におけるスコットランドのゲール人 第14回：『クローディアの秘密』における家出という冒険 第15回：『ふしぎの国のアリス』における冒険						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業をより良く理解して自分の知識とするために、以下の授業外学習をしてください。 授業前準備学習：テキストのなかの指定された章を読んで、指示されたテーマについて考えをまとめる。詳細は授業内で指示(2時間) 授業後学習：授業で学んだ絵本・冒険物語について、指定のフォームに要点をまとめる(2時間)						
授業方法	講義形式 能動的に参加してもらうために、毎回の授業で以下のことを書いて提出してもらいます。それをふまえた解説と講義を行います。 1. 予習で指定された課題 2. 講義の内容について、指定された課題。						
評価基準と評価方法	期末のレポート50%、絵本レポート・冒険物語レポートと毎授業時に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
履修上の注意	1. 履修の対象者 児童文学に関心をもっている人を対象とします。 2. 履修上の注意 実授業数の三分之一を超えて欠席すると、受講資格を失います。 教員の連絡先または連絡方法：学習上の質問は授業終了後30分間、事前予約の上受け付けます。 テキストを必ず入手して授業に持ってきてください。						
教科書	『ツバメ号とアマゾン号上・下』アーサー・ランサム著 神宮輝夫訳 岩波書店 ISBN978-4-00-114170-2 C8397 ISBN978-4-00-114171-9 C8397						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]―物語ジャンルと歴史―』日本イギリス児童文学学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子					科目ナンバ-	Z51040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の児童文学を読む ―冒険物語を中心に―						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の絵本や幼年文学、長編児童文学の冒険物語を中心に、作品のなかで冒険の要素がどのように描かれ、それが子どもにとってどのような意味を持つのかを探る。また作品のなかの「ごっこ」遊びの冒険が登場人物の対立と協調にどのような役割を果たしているかを考察する。さらに作品に描かれる冒険が英米の歴史や社会をどのように反映しているかを探り、舞台となる土地の文化や風物にも触れることで、作品の背景を学ぶ。						
到達目標	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の伝統や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶことができる。また実際に作品の一部を読むことにより、作品に描かれる子どもの個性や心情を分析する力と、作者のメッセージを読み取る洞察力を養うことができる。(知識・理解)						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学と冒険物語について 第2回：英米の絵本における冒険1 昔話を中心に 第3回：英米の絵本における冒険2 さまざまな絵本 第4回：幼年文学 『クマのプーさん』の冒険 第5回：冒険物語のルーツ『ロビンソン・クルーソー』と『宝島』、アーサー・ランサムと『ツバメ号とアマゾン号』シリーズとその舞台について 第6回：『ツバメ号とアマゾン号』における「海賊」と「探検家」 第7回：『ヤマネコ号の冒険』における宝探し 第8回：『長い冬休み』における「北極探検」 第9回：『オオバン・クラブ物語』における鳥類保護 第10回：『海へ出るつもりじゃなかった』におけるリアルな冒険 第11回：『六人の探偵たち』における「探偵(真犯人捜し)」 第12回：『女海賊の島』における中国の女海賊 第13回：『シロクマ号となぞの鳥』におけるスコットランドのゲール人 第14回：『クローディアの秘密』における家出という冒険 第15回：『ふしぎの国のアリス』における冒険						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業をより良く理解して自分の知識とするために、以下の授業外学習をしてください。 授業前準備学習：テキストのなかの指定された章を読んで、指示されたテーマについて考えをまとめる。詳細は授業中に指示(2時間) 授業後学習：授業で学んだ絵本・冒険物語について、指定のフォームに要点をまとめる(2時間)						
授業方法	講義形式 能動的に参加してもらうために、毎回の授業で以下のことを書いて提出してもらいます。それをふまえて解説と講義を行います。 1. 予習で指定された課題 2. 授業の内容について、指定された課題						
評価基準と評価方法	レポート50%、絵本レポート・冒険物語レポートと毎授業時に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
履修上の注意	1. 履修の対象者 児童文学に関心をもっている人を対象とします。 2. 履修上の注意 実授業数の三分の一を超えて欠席すると、受講資格を失います。 教員の連絡先または連絡方法：学習上の質問は授業終了後30分間、事前予約の上受け付けます。 テキストを必ず入手して授業に持ってきてください。						
教科書	『ツバメ号とアマゾン号上・下』アーサー・ランサム著 神宮輝夫訳 岩波書店 ISBN978-4-00-114170-2 C8397 ISBN978-4-00-114171-9 C8397						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]―物語ジャンルと歴史―』日本イギリス児童文学学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	青年期の臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	P32070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	青年期に関連する課題に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	青年期に関連の深いさまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。ワークや発表またはレポートを通じて、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。						
到達目標	<p>①青年期に関連の深い諸課題について、臨床心理学的な観点から考え、説明することができる。【知識・理解】</p> <p>②授業を通じて得た知識や理解を自己理解や日常生活上の諸課題の理解に応用できる。また、それを言語化し、他者に伝えることができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 導入 ～授業の進め方、生涯発達と青年期～</p> <p>第2回 青年期の親子関係</p> <p>第3回 青年期の恋愛・友人関係(1)</p> <p>第4回 青年期の恋愛・友人関係(2)</p> <p>第5回 青年期の就活・就労(1)</p> <p>第6回 青年期の就活・就労(2)</p> <p>第7回 ニート・ひきこもりの心理(1)</p> <p>第8回 ニート・ひきこもりの心理(2)</p> <p>第9回 青年期の犯罪(1)</p> <p>第10回 青年期の犯罪(2)</p> <p>第11回 青年期の精神疾患(1)</p> <p>第12回 青年期の精神疾患(2)</p> <p>第13回 個人と集団の精神療法</p> <p>第14回 まとめと試験</p> <p>第15回 課題発表、試験解説</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：文献購読、ワークまとめ。(2時間)</p> <p>授業後学習：文献購読、課題。(2時間)</p>						
授業方法	講義、演習(プレゼンテーション、ディスカッション)。						
評価基準と評価方法	<p>授業レポート(40%)：到達目標①②および③に関する到達度の確認。</p> <p>試験 ※持ち込み可(30%)：到達目標①および②に関する到達度の確認。</p> <p>課題1(授業ワークのまとめ、レポート、発表のいずれか)(30%)：到達目標①②および③に関する到達度の確認。</p> <p>※課題1のテーマ(レポート、発表)：青年期の心理に関連する素材、または参考文献の内容について、授業内容と関連づけ説明する。</p> <p>課題2(素材カード)：到達目標①②および③に関する到達度の確認。</p> <p>※課題1は必ず行ってください。</p>						
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。						
教科書	なし。毎回資料を配布します。 ※過去の資料は松蔭manabaコンテンツから取得可能。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生物学入門／くらしと科学I						
担当教員	吉野 健一					科目ナンバ-	251190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	女性として健康で幸福な生活を送るための生物学を学ぶ						
授業の概要	人間が健康的な暮らしを送るためには生物学や医学の知識は不可欠です。iPS細胞、クローン生物、BSE（牛海綿状脳症）、遺伝子組み換え食品、ワクチン、新型インフルエンザウイルス、性の多様性、乳がん、染色体異常など、報道やテレビ番組でよく見聞きする生物学や医学に関する身近なトピックスを取り上げて科学的に解説します。特に女性として健康で幸福な生活を送るために有用な生物学的・医学的知見を紹介しながら、より良い生活を送るために科学的な知識や客観的な思考力が大切であることを学びます。						
到達目標	<p>(1) 女性として健康で幸福な生活を送ることができるための基礎的な生物学の知識の理解を深め、理解した知識を予備知識のない人がわかるように説明することができる。【知識・理解】</p> <p>(2) 生物学や医学に関するノンアカデミックな情報を適切に理解、解釈、分析し、正しい情報を引き出し、活用できる能力を身につける【汎用的技能】</p> <p>(3) 健康に対する興味を生物学的な視点から客観的かつ具体的なものとして認識し、生涯にわたり本人や家族の健康な身体の保持増進を図る姿勢を身につけることができる。【態度・指向性】</p>						
授業計画	<p>第1回：がんという病気で細胞を理解しよう ①がんとは何か</p> <p>第2回：がんという病気で細胞を理解しよう ②乳がんの特徴</p> <p>第3回：感染症という病気からウイルスと細菌を理解しよう</p> <p>第4回：新しい感染症を理解しよう。</p> <p>第5回：ワクチンから健康を守る免疫を理解しよう</p> <p>第6回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ①プリオン病とは何か</p> <p>第7回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ②プリオン病発症のしくみ</p> <p>第8回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ③プリオン病の歴史</p> <p>第9回：いろいろな生き物の生殖法を理解しよう</p> <p>第10回：ヒトの性決定システムを理解しよう</p> <p>第11回：性決定システムの多様性を理解しよう</p> <p>第12回：ヒトの初期発生を理解しよう</p> <p>第13回：クローンとiPS細胞を理解しよう</p> <p>第14回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ①遺伝子を組み換えるとはどういうことか</p> <p>第15回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ②遺伝子組み換え技術の有用性と問題点</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回の授業で扱うテーマを参考書等を利用して予習する（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業内で示したテーマに関するニュース記事や類似の問題点を検索し、記事の内容やその背景を理解することによって、期末レポートの準備を行う（学習時間2時間）</p>						
授業方法	講義。プロジェクターを使って解説します。毎回穴埋め形式のプリントを配布します。受講し、プリントにキーワードを書き込む作業をしながら、理解を深めてもらう形式です。						
評価基準と評価方法	<p>授業内提出物75%：穴埋め形式のプリントに加え、講義の要点をまとめた短文のレポートの提出を義務付けています。授業1回につき5%。</p> <p>期末レポート：25%。</p> <p>単位の取得には10回以上の出席と期末レポートの提出が必須。授業内提出物の得点が0点の場合は欠席扱いにします。また私語などの他の受講生への迷惑行為が認められた場合は減点します。</p>						
履修上の注意	<p>(1) 履修条件 生物学や医学、健康に興味をもち、積極的に授業に参加する学生を対象とします。</p> <p>(2) その他 私語や飲食、講義中のスマートフォンや携帯電話の操作、化粧など、他の受講生の聴講を妨げたり、不適切な行為は厳禁。 講義中の迷惑行為、不適切な行為、学生便覧に記載された受講マナーや校内ルール（講義室におけるスマートフォンの充電等）に対する違反が認められた場合は授業内提出物の点数を減点します。 13:40以降の入室および14:10以前の退室は欠席扱いとします。 座席位置に関しては教員の指示に従ってください。 代筆やスマートフォンの操作などの不正行為、類似答案、期末レポートにおける他の文献からのコピー＆ペーストが認められた場合は単位を認定しません。</p>						
教科書	なし。ノート形式の小テスト答案用紙を毎回2部配布します。						
参考書	<p>『これだけはおさえたい生命科学 身近な話題から学ぶ』武村政春・他著、実教出版 ISBN978-4-407-32166-1</p> <p>『生物学の基礎知識』都河明子著、丸善 ISBN978-4-621-07976-8</p> <p>『初歩からの生物学』鈴木範男著、三共出版 ISBN978-4-7827-0554-4</p> <p>『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞「境界を生きる取材班」著、毎日新聞 ISBN978-4-620-321783</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材					科目ナンバ-	251030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学入門						
授業の概要	よく引き合いに出される古典的文学作品を紹介し、それらの作品がいかなる意味で今なお注目に値するかを解説します。科目としての「国語」と「文学」の違い、あるいは文学についてどう語ればよいかを理解してもらいます。古典的文学作品の多くはあまり読まれてはいないので、作品を知るだけでも教養になります。なお、日本における現代的な教養という観点から、アジアやアフリカなどを含めた全世界の文学を扱うのではなくて、欧米の古典的名作を一つのテーマに沿って紹介します。						
到達目標	授業で取り上げた欧米の古典的名著について、作品の成立背景を説明できる。【知識・理解】 それらがいま古典とみなされている理由を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	<p>「理想の社会」をテーマに世界の名作文学を紹介する。</p> <p>導入 第1回 授業の進め方、文学の解釈について</p> <p>テーマの射程 第2回 理想の社会：モア『ユートピア』(1516) 第3回 理想に反する社会：オーウェル『1984年』(1949) 第4回 理念のない生き方：ヒルゼンラート『ナチと理髪師』(1971)</p> <p>様々な理想追求 第5回 科学万能主義批判：スウィフト『ガリバー旅行記 第3篇』(1735) 第6回 馬の素朴な暮らし：スウィフト『ガリバー旅行記 第4篇』(1735) 第7回 異教との融和：レッシング『賢者ナータン』(1779) 第8回 秘密結社：ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』(1796) 第9回 社会変革：ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』(1829) 第10回 詩人崇拜：ノヴァーリス『青い花』(1802) 第11回 順風満帆な人生：アイヒェンドルフ『のらくら者日記』(1826) 第12回 文明への省察：ソロー『ウォールデン』(1854) 第13回 理想的な人格形成：シュティフター『晩夏』(1857) 第14回 社会主義革命：チエルヌイシェフスキー『何をなすべきか』(1863) 第15回 悟り：ヘッセ『シッダールタ』(1922)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業では毎回A4両面一枚に収まるだけしか作品を引用しない。予習または復習として、書籍を手に取り各作品を読みましょう。読み通せなくとも二時間は読んでください。読書に代えて映像化されたものを観るのもよいでしょう。そのうえで各作品につき授業内容を振り返り、身近な様々な作品のなかにそれとの類似性やコラージュやオマージュを探し、学んだこと気付いたことを整理して文章にまとめる作業に二時間かけましょう。その成果は次回の感想文に反映させられます。あるいはその作文自体を提出すれば加点されます。						
授業方法	講義形式で、各回に一作品を紹介します。毎回配布する感想用紙に、その回のテーマと作品名から連想されることをまず記し、作品に触れて解説を聴いたのちに印象に残った部分とその理由、作品の要点と感想を記します。映画などを短時間鑑賞する場合があります。						
評価基準と評価方法	感想文で評価します。考えながら話を聴き、学び得た事柄を記すことが期待されます。希望者には評価の記された感想文を返却します。授業内の感想文は字数が限られるため、授業ちゅうに提出したうえで、松蔭manabaで作文を提出してもよいです。字数および回数は自由です。試験は実施しません。						
履修上の注意	考えながら聴き、すでに有する知識や経験と関連させて理解しようと試みましょう。私語厳禁。						
教科書	文学作品の抜粋を毎回配布します。						
参考書	武田良材 著『しがいないサラリーマンの1930-32年』郁文堂、ISBN978-4261073355 ヘンリー・ヒッチングズ 著『世界文学を読めば何が変わる?』みすず書房、ISBN978-4622075653 ピーエール・バイヤール 著『読んでいない本について堂々と語る方法』筑摩書房、ISBN978-4480837165 トーマス・C・フォスター 著『大学教授のように小説を読む方法』白水社、ISBN978-4560080399						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の歴史						
担当教員	尾崎 秀夫					科目ナンバ-	Z51080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史の概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近代史、19世紀以降の歴史を概観する。またできる限り時事問題との関連にもふれながら授業を進めていきたい。現代の世界は言うまでもなく歴史を経過して生まれたものである。現代を考えるには、歴史をふまえていなければならないのは当然である。受講生に近代史の基本的知識を身につけてもらうとともに、現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	ヨーロッパの近現代史について述べるができる。(知識・理解の観点) 現代社会の諸問題について歴史的に理解し、述べるができる。(汎用的・技能の観点) 現代の諸問題に関心を持ち、積極的に議論することができる。(態度・志向性の観点)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絶対主義</li> <li>2. 市民革命（イギリス革命、アメリカ独立革命）</li> <li>3. 市民革命（フランス革命）</li> <li>4. ウィーン体制</li> <li>5. 諸国民の春</li> <li>6. イタリアとドイツの統一</li> <li>7. 帝国主義</li> <li>8. 第1次世界大戦とロシア革命</li> <li>9. ヴェルサイユ体制</li> <li>10. 世界恐慌とナチスの台頭</li> <li>10. 第2次世界大戦</li> <li>11. 冷戦</li> <li>13. ベトナムとアフガニスタン</li> <li>14. 冷戦の終結と現代世界</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には高校の世界史の教科書などを参考に、次の授業で扱う時代の主要人物、事件について調べ、基礎知識を持っておくこと。また授業は欧米中心なので、その他の地域の歴史については授業外で自主的に調べ、欧米の歴史との関連を考えてほしい。また過去と現代のつながりについても考察してほしい。1時間の授業について前後4時間の授業外の学習が必要である。						
授業方法	講義が中心となるが、適宜、とくに現代とつながる問題について質問し、ディスカッションを求める。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
履修上の注意	大学生としての良識に従って受講すること。とくに私語は慎むこと。10回以上出席していないと受験資格を認めない。遅刻2回で欠席1回扱いとする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の歴史						
担当教員	尾崎 秀夫					科目ナンバ-	251080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史の概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近代史、19世紀以降の歴史を概観する。またできる限り時事問題との関連にもふれながら授業を進めていきたい。現代の世界は言うまでもなく歴史を経過して生まれたものである。現代を考えるには、歴史をふまえていなければならないのは当然である。受講生に近代史の基本的知識を身につけてもらうとともに、現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	ヨーロッパの近現代史について述べるができる。(知識・理解の観点) 現代社会の諸問題について歴史的に理解し、述べるができる。(汎用的技能の観点) 現代の諸問題に関心を持ち、積極的に議論することができる。(態度・志向性の観点)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絶対主義</li> <li>2. 市民革命 (イギリス革命、アメリカ独立革命)</li> <li>3. 市民革命 (フランス革命)</li> <li>4. ウィーン体制</li> <li>5. 諸国民の春</li> <li>6. イタリアとドイツの統一</li> <li>7. 帝国主義</li> <li>8. 第1次世界大戦とロシア革命</li> <li>9. ヴェルサイユ体制</li> <li>10. 世界恐慌とナチスの台頭</li> <li>10. 第2次世界大戦</li> <li>11. 冷戦</li> <li>13. ベトナムとアフガニスタン</li> <li>14. 冷戦の終結と現代世界</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前には高校の世界史の教科書などを参考に、次の授業で扱う時代の主要人物、事件について調べ、基礎知識を持っておくこと。また授業は欧米中心なので、その他の地域の歴史については授業外で自主的に調べ、欧米の歴史との関連を考えてほしい。また過去と現代のつながりについても考察してほしい。1時間の授業について前後4時間の授業外の学習が必要である。						
授業方法	講義が中心となるが、適宜、とくに現代とつながる問題について質問し、ディスカッションを求める。						
評価基準と評価方法	平常点 (平常点、平常試験) で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
履修上の注意	大学生としての良識に従って受講すること。とくに私語は慎むこと。10回以上出席していないと受験資格を認めない。遅刻2回で欠席1回扱いとする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						



科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	知覚・認知心理学／認知心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人の知覚・認知の特徴やしぐみについて理解する						
授業の概要	知覚と認知はどちらも「知る」機能に関わっている。人は「こころ」を通して外界を知覚し、対象を、世界を、そして自分自身を認知している。この授業では、知覚や認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。						
到達目標	①人の感覚・知覚等の機序及びその障害について論じることができる。 ②人の認知・思考等の機序及びその障害について論じることができる。 ③人の知覚・認知について自らの考えをまとめることで、自分自身や他者に対するより深い理解と関心が得られる。						
授業計画	第1講 知覚・認知心理学とは 第2講 知覚1 ～知覚の不思議～ 第3講 知覚2 ～色の不思議～ 第4講 知覚3 ～なぜ色が見えるのか～ 第5講 知覚4 ～三次元の世界～ 第6講 記憶1 ～自由再生の実験からわかること～ 第7講 記憶2 ～感覚記憶と注意～ 第8講 記憶3 ～短期記憶とワーキングメモリ～ 第9講 記憶4 ～長期記憶～ 第10講 問題解決 第11講 知覚・認知の障害1 ～うつ病と認知～ 第12講 知覚・認知の障害2 ～認知療法～ 第13講 まとめ 第14講 試験とふりかえり 第15講 試験解説						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。適宜、実習形式による体験学習を取り入れる。授業の最後にリアクションペーパーの記述を求める。リアクションペーパーに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー30%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）。到達目標①②に関する到達度の確認。 期末試験70%：到達目標①②③に関する到達度の確認。試験結果の講評は15講で行う。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	地球環境と人間						
担当教員	坂元 仁					科目ナンバ-	Z51200
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	地球史、生命史、人類史を辿り、自然観および環境問題について考える。						
授業の概要	地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、病原性微生物・ウイルスなど、人類のみならず、生物全体が生存の危機に曝されている。それらを理解し、考えるための基礎事項（化学、生物学、物理学、地学）についてまず講義し、個別の大きな環境問題、過去と現在の環境問題の取り組みを基に、今後の環境と生命の行く末、人間のなすべきことなどについて考察する。						
到達目標	①生命の歴史、人類の歴史、科学技術史を辿って地球環境と人間の関係の変遷を様々な切り口で学び知り、深い人間理解につなげる。【知識・理解】 ②“自然の中に人間がいる”という自然観・人間観に立ち返り、現代社会が抱える諸問題・危機に対して広い視点から俯瞰して、プラス面・マイナス面を分析でき、自分の意見を論理的に記述できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 講義のガイダンスとノートの取り方について 第2回 生命の誕生と地球環境－地球の誕生、最初の生命とは、シアノバクテリアと酸素 第3回 生命進化の大爆発－細胞、遺伝子、真核生物の誕生、カンブリア期の進化爆発 第4回 地球環境と大量絶滅の謎－5回繰り返された大量絶滅、人類による第6の絶滅 第5回 人類の誕生と進化－ホモ・サピエンスとネアンデルタール人、道具・言語・意識の芽生えの謎 第6回 農耕と家畜化－農耕はなぜはじまったのか、初期の栽培植物と家畜について 第7回 道具：鉄器から産業革命を経て－古代の物語のなかの環境破壊、自然科学の発達 第8回 医学の発達－医学の歴史、なぜ病気は起こるのか？ 第9回 地球環境と人口・食糧問題－世界人口と高齢化社会、生態系から考える 第10回 地球温暖化－人類活動要因説と自然環境要因説 第11回 地球資源の枯渇とエネルギー問題－再生可能エネルギーと次世代資源の探索 第12回 環境汚染と環境破壊－公害（水俣病と原発事故） 第13回 水資源と自然環境浄化への取り組み－美味しい水、水辺の生態系を育む 第14回 地球規模化する感染症－感染症の歴史、インフルエンザ、多剤耐性菌の出現 第15回 地球環境と人類の未来－エコロジー、持続可能な社会に向けて						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義を通してノートを取る能力（キーワードをメモする、要約する）、自分でもさらに調べてみる能力を養っていくこと（学習時間：2時間）。普段のニュース（新聞、テレビ、インターネット、書籍）から環境問題に注意を向け、好奇心を持って調べ、批評的に考えてみる（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義：プロジェクターを用いた視聴覚教材を用いて講義を進める。講義内容に関するテキストとして部分的に穴埋め式にしたプリントを用い、記入を通して理解を深める。毎回、感想または、問題提起に対する意見の提示、講義内容の模式図化などの講義時間内に提出可能な小レポートを実施する。						
評価基準と評価方法	課題レポート40%（選択した課題に対して背景説明、問題提起、その問題への対策案に関する論理的記述を評価する） 平常点60%（受講態度30%、小テスト30% 授業毎にリアクションペーパー（小レポート）を課し、評価する）						
履修上の注意	私語厳禁。						
教科書	講義時の配布資料をテキストとする。						
参考書	クリストファー・ロイド（著）「137億年の物語 宇宙が始まってから今日までの全歴史」（文藝春秋） 西本昌司（著）「地球のはじまりからダイジェスト 地球のしくみと生命進化の46億年」（合同出版株式会社） ジャレド・ダイヤモンド（著）「銃・病原菌・鉄——1万3000年にわたる人類史の謎（上・下）」（草思社、2000年）その他、適時指示。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	東西芸術の文化史						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバ-	J72570
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	異質な文化が出会うとき、新しいものが生まれる。						
授業の概要	「芸術」という概念はキリスト教西欧で生まれ、西欧主導で発展したと言える。「西」から見て異質なものは「東」と呼ばれ、その異質なもの同士が出会うとき、新たな文化的展開の可能性が生まれる。西欧はどのように東方と対峙し、日本のわたしたちはどのように西洋を受け止め、向き合ってきたのかを、幾つかの歴史的場面を取り上げて検証する。						
到達目標	1) 東西芸術の歴史の中で、異なる文化・伝統がどのように出会い、互いに影響しあって新たな文化的展開を生み出してきたかを学び、理解することができる。【知識・理解】 2) わたしたちのものの見方が文化・伝統によって裏打ちされており、その変化がわたしたちのものの見方を変えることに気づく。【知識・理解】 3) 異文化との出会いがさらなる文化的発展につながりうることを意識し、積極的に学び、伝える姿勢をもつ。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 東と西 第2回 ギリシャは西方か？ 第3回 ギリシャ的世界観とローマ的世界観 第4回 キリスト教世界における東方と西方 第5回 異教徒たち 第6回 まだ見ぬ東方世界へ 第7回 日本と南蛮 第8回 旅・景色・庭園ーピクチャレスクー 第9回 ロマン主義ーエキゾチックなものへー 第10回 シノワズリー・ジャポニズム 第11回 ジャポニズムと印象主義 第12回 プリミティヴィズムー間文化的な問いー 第13回 西洋美術を纏うー東洋のわたしー 第14回 映画の中の異文化 第15回 日本から海外へ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、図書室で調べてみるなどして予習を行うこと（学習時間2時間）。 授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った文化や作品・作家などについて、各自がさらに掘り下げて調べてみる（学習時間2時間）。 授業中に告知する展覧会などへ積極的に足を運び、生の作品に触れること。紹介した図書や映画も見てみて欲しい。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 簡単なワークショップ、個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションも取り入れる。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合によって評価。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することも可能。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もある。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	東西芸術の文化史／比較文化IB						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバ-	A32020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	異質な文化が出会うとき、新しいものが生まれる。						
授業の概要	「芸術」という概念はキリスト教西欧で生まれ、西欧主導で発展したと言える。「西」から見て異質なものは「東」と呼ばれ、その異質なもの同士が出会うとき、新たな文化的展開の可能性が生まれる。西欧はどのように東方と対峙し、日本のわたしたちはどのように西洋を受け止め、向き合ってきたのかを、幾つかの歴史的場面を取り上げて検証する。						
到達目標	1) 東西芸術の歴史の中で、異なる文化・伝統がどのように出会い、互いに影響しあって新たな文化的展開を生み出してきたかを学び、理解することができる。【知識・理解】 2) わたしたちのものの見方が文化・伝統によって裏打ちされており、その変化がわたしたちのものの見方を変えることに気づく。【知識・理解】 3) 異文化との出会いがさらなる文化的発展につながりうることを意識し、積極的に学び、伝える姿勢をもつ。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 東と西 第2回 ギリシャは西方か？ 第3回 ギリシャ的世界観とローマ的世界観 第4回 キリスト教世界における東方と西方 第5回 異教徒たち 第6回 まだ見ぬ東方世界へ 第7回 日本と南蛮 第8回 旅・景色・庭園ーピクチャレスクー 第9回 ロマン主義ーエキゾチックなものへー 第10回 シノワズリー・ジャポニズム 第11回 ジャポニズムと印象主義 第12回 プリミティヴィズムー間文化的な問いー 第13回 西洋美術を纏うー東洋のわたしー 第14回 映画の中の異文化 第15回 日本から海外へ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、図書室で調べてみるなどして予習を行うこと（学習時間2時間）。 授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った文化や作品・作家などについて、各自がさらに掘り下げて調べてみる（学習時間2時間）。 授業中に告知する展覧会などへ積極的に足を運び、生の作品に触れること。紹介した図書や映画も見てみて欲しい。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 簡単なワークショップ、個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションも取り入れる。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合によって評価。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することも可能。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もある。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の文学						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	Z51020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学を通して見る、現代にも通じる日本文化の考察						
授業の概要	<p>古典を学ぶことは、失われた過去の文化遺産を知識として得ようとするのではない。現代日本の生活の中には、古典に由来する習慣や感性があたりまえのように存在している。また、新たに生み出されるさまざまな日本の文化の中にも、古典的な文化を、発想の源としているものが少なからずある。</p> <p>本授業では、古典文学を読むことを通じて、現代日本の生活や文化の中に生きる、日本文化の独自性を再発見し、それが現代まで生き残ってきたのはなぜかを考える。また、さらに、他の文化から見た日本的なものについても考察したい。</p>						
到達目標	<p>(1) 古典文学史のおよその流れを説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) 現代も残る日本の生活習慣や日本人の感性のなかに、古典文学に由来するものがあることを説明できる。【知識・理解】</p> <p>(3) 世界的な視点から見た日本文化の独自性について、考えを述べるができる。 【知識・理解】</p>						
授業計画	<p>第1回：古典文学と日本文化についての概説</p> <p>第2回：万葉仮名と万葉集</p> <p>第3回：仮名の発明ーいろは歌と五十音図</p> <p>第4回：古今集などの古写本</p> <p>第5回：和歌のリズムと修辞ー掛詞・縁語など</p> <p>第6回：和歌に見る季節感</p> <p>第7回：物語の興隆①ー竹取物語</p> <p>第8回：物語の興隆②ー伊勢物語</p> <p>第9回：物語の興隆③ー源氏物語</p> <p>第10回：無常観①ー平家物語</p> <p>第11回：無常観②ー方丈記</p> <p>第12回：無常観③ー徒然草</p> <p>第13回：漂泊の思いー奥の細道</p> <p>第14回：古典文学史の概観</p> <p>第15回：古典文学と日本文化についてのまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回の授業で扱う古典文学に関する事柄について調べて、学習する。 （学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業で学んだ事柄について確認し、整理する。 授業中に提示した事柄について調べ、レポートなどにまとめる。 （学習時間：2時間）</p>						
授業方法	<p>講義と演習</p> <p>毎回、授業のまとめ（リアクションペーパー）やワークシート、または小テストなどを課す。</p> <p>演習としては、調べて来た事柄をまとめたレポートを発表するプレゼンテーションを取り入れる。</p>						
評価基準と評価方法	<p>平常点（授業内に書き込んだワークシート、リアクションペーパー、プレゼンテーションを含めた授業に対する取り組み）30% 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。</p> <p>小テスト30% 到達目標（1）（2）に関する到達度の確認。</p> <p>期末レポート40% 到達目標（2）（3）に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>遅刻・欠席をしないこと。理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。</p> <p>各回、授業内に書き込んだワークシートの提出や小テストを実施するので、出席することが重要。</p> <p>2／3以上の出席回数に満たない者は、期末レポートの提出を認めないものとする。</p> <p>授業中の携帯電話、スマートフォン、タブレット等は使用不可。電子辞書は使用可。</p> <p>なお、試験などで古典の文法的知識を問うことはしない。</p>						
教科書	<p>教科書は指定しない。</p> <p>毎回、資料を配付する。</p>						
参考書	<p>適宜、提示する。</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の文学						
担当教員	東野 泰子					科目ナンバ-	251020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学を通して見る、現代にも通じる日本文化の考察						
授業の概要	<p>古典を学ぶことは、失われた過去の文化遺産を知識として得ようとするのではない。現代日本の生活の中には、古典に由来する習慣や感性があたりまえのように存在している。また、新たに生み出されるさまざまな日本の文化にも、古典的な文化を発想の源としているものが少なからずある。</p> <p>本授業では、古典文学を読むことを通じて、現代日本の生活や文化の中に生きる、日本文化の独自性を再発見し、それが現代まで生き残ってきたのはなぜかを考える。さらに、他の文化から見た日本的なものについても考察したい。</p>						
到達目標	<p>(1) 古典文学史のおよその流れを説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) 現代も残る日本の生活習慣や日本人の感性のなかに、古典文学に由来するものがあることを説明できる。【知識・理解】</p> <p>(3) 世界的な視点から見た日本文化の独自性について、考えを述べるができる。【知識・理解】</p>						
授業計画	<p>第1回：はじめに 現代日本文化と古典文学</p> <p>第2回：漢字で日本語を表すこと1－古事記・日本書紀</p> <p>第3回：漢字で日本語を表すこと2－万葉集</p> <p>第4回：仮名の発明－いろは歌と五十音図</p> <p>第5回：七五のリズム－万葉集・古今集・今様</p> <p>第6回：暦と季節感－古今集・新古今集の四季</p> <p>第7回：恋の発端1－伊勢物語</p> <p>第8回：恋の発端2－源氏物語</p> <p>第9回：日記という文化1－漢文日記・土佐日記</p> <p>第10回：日記という文化2－蜻蛉日記・紫式部日記</p> <p>第11回：記録する意志－枕草子・方丈記</p> <p>第12回：無常観の系譜－平家物語・奥の細道</p> <p>第13回：ファンタジーの系譜－竹取物語ほか</p> <p>第14回：日本文学史概観</p> <p>第15回：まとめ－世界の中の日本文学</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：次回の授業で扱う古典作品について、その概要を辞書等で確認し、高校までに学習した内容を復習整理する。（学習時間1時間程度）</p> <p>授業後学習：授業内で確認すべき事柄や、覚えるべき内容を指示するので、配布資料や辞書等を使用して、授業内容をまとめ、覚える。（学習時間3時間程度）。</p>						
授業方法	<p>講義と演習。</p> <p>毎回、前回の授業のまとめやワークシート（リアクションペーパー）、または小テスト等を課す。</p> <p>授業時に課すレポートに基づいたプレゼンテーションを、次回授業時に代表者に行ってもらい、それについてディスカッションする。</p>						
評価基準と評価方法	<p>平常点（リアクションペーパー、小テスト）60%程度 期末レポート40%程度</p> <p>期末レポートは、現代日本文化と古典文学にかかわるテーマのものを、第14回授業時まで提出してもらう。</p> <p>試験等で古典の文法的知識を問うことはしない。</p>						
履修上の注意	<p>理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。</p> <p>授業中の携帯電話、スマートフォン、タブレット等は使用不可。電子辞書は使用可。</p> <p>毎時、前回授業に関するリアクションペーパー等を提出してもらい、それを平常点とするので、出席することが重要。</p>						
教科書	<p>教科書は指定しない。</p> <p>毎時、資料を配付する。</p>						
参考書	<p>授業中に紹介する。</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の歴史						
担当教員	李 芝映					科目ナンバ-	251070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	古代から現代にいたる日本歴史の概説						
授業の概要	この授業では、古代から現代まで、日本の歴史を概観していきます。各時代の社会・政治・経済システムがいかに変わっていったのかに重点を置いて説明します。その上で、それぞれの時代の人々の生き方を紹介しながら、多様な観点からその時代を理解していきます。通史的な観点から、社会・政治・経済の構造がどう変わって来たのかを考察することを通じて、現代社会の構造を理解・分析する姿勢を身につけることを目指します。						
到達目標	1. 日本史に関する知識を得て、それを自分の言葉で説明できる。【知識・理解】 2. 政治・社会・経済構造の歴史的変遷課程を理解して、それを構造的に論じることができるようになる。【知識・理解】 3. 歴史の理解を通じて、現代社会に対する理解力・分析力を身に付けることができるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：講義の概要と進め方、成績評価の方法 第2回 古代時代①：農耕社会の出現と古代国家の成立 第3回 古代時代②：律令国家の成立 第4回 中世時代①：荘園経済の発達 第5回 中世時代②：武家の登場 第6回 戦国から統一へ 第7回 江戸時代①：幕藩体制 第8回 江戸時代②：経済・政治の変容と武士 第9回 江戸時代③：経済・政治の変容と民衆 第10回 明治時代①：文明開化と近代国家 第11回 明治時代②：自由民権と立憲国家 第12回 大正時代：新しい社会への願望 第13回 昭和時代①：戦争と社会 第14回 昭和時代②：戦後の政治と社会 第15回 授業のまとめ：総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業後学習：授業中で指示した主題について小論文を書いて、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する。その際には、授業中の資料を参考しながら自学自習する（学習時間：4時間）						
授業方法	・講義 ・授業の内容と関連のある主題を提示し、それについて小論文を書いてもらう（松蔭manabaコースコンテンツに投稿）。そしてその小論文を授業で共有し、観点・論点を広げていく。						
評価基準と評価方法	・小論文(50%)：授業中に提示した主題について小論文を書いて、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する。到達目標の(2)・(3)に関する到達度の確認。 ・期末試験(40%)：授業内容の理解度を評価する。到達目標の(1)に関する到達度の確認。 ・授業態度(10%)：授業への集中力・積極性を評価。						
履修上の注意	・この授業は、中・高校で歴史を履修しなかった学生も理解できる日本歴史の概論です。 ・出席回数数の1/3以上欠席した場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	各回の授業で資料を配布します。						
参考書	各回の授業で内容に応じて参考文献を紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文化を学ぶ／日本文化を学ぶB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	王朝びとの生活と文化						
授業の概要	<p>平安時代の貴族たちがどのような邸に住み、どのような装束を身にまとい、どのような生活を送っていたのかを考察し、さらに、そこに形成されていった華やかで雅(みやび)な平安時代の文化について明らかにしたい。</p> <p>本授業では、『源氏物語』や『枕草子』、また『紫式部日記』などの王朝日記に現れている王朝人の暮らしや文化について講義する。当時の貴族生活や儀礼・行事について理解しやすいよう、パソコンやDVDの画像をスクリーンに提示したりしながら解説する。</p>						
到達目標	<p>(1) 平安貴族の暮らしと文化について理解し、説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) 日本文化における平安時代の文化の特徴を説明することができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>第1回 王朝人の住まい</p> <p>第2回 男性の装束</p> <p>第3回 女性の装束</p> <p>第4回 装い(化粧・整髪など)</p> <p>第5回 貴族の食事</p> <p>第6回 信仰と生活習慣(物忌み、方違え)</p> <p>第7回 貴族の宮仕え(官位官職)</p> <p>第8回 通過儀礼(袴着・元服・裳着など)</p> <p>第9回 恋愛と結婚</p> <p>第10回 算賀・葬送</p> <p>第11回 年中行事と節会(七夕・相撲節会など)</p> <p>第12回 祭礼(賀茂の祭など)</p> <p>第13回 貴族の教養</p> <p>第14回 貴族の遊び(音楽・蹴鞠など)</p> <p>第15回 まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習: 平安時代の文化について興味を持ち、それらが扱われた資料や書籍を読む。(2時間)</p> <p>授業後学習: 授業で学んだ平安時代の文化や関連する事項について要点を確認、整理する。(2時間)</p>						
授業方法	講義(平安時代の文化について考察したことについてディスカッションやプレゼンテーションにも取り組む。)						
評価基準と評価方法	<p>期末試験 70% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。</p> <p>小テスト 20% 到達目標(1)に関する到達度の確認。</p> <p>取り組みに対する意欲・関心などの姿勢 10% 到達目標(2)に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>毎回、プリントを配布するので、遅刻、欠席をしないこと。</p> <p>期末試験だけでなく、小テストも実施する。</p> <p>3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。</p>						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						



科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	人間関係論						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	Z51120
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間関係に関する社会心理学の知見、理論を習得する。						
授業の概要	現代社会における人間関係は、日々複雑になっている。対面でのコミュニケーションだけではなく、SNS上での全く知らない相手との交流なども増えている。本講義では、個人と状況の相互作用によって規定される人間関係について、社会心理学の知見からアプローチする。そして、これからの社会においてどのように行動すべきかを考える。						
到達目標	社会心理学的な視点から、人間関係について把握するための適切な方法について理解できる。【知識・理解】 他者に関心を持ち、その心理状態について十分な配慮をしながら、人間関係論で学んだことを生かして、深く理解することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 人間関係論と社会心理学・コミュニケーション 第2回 自己開示 第3回 認知的斉合性 第4回 態度 第5回 説得 第6回 社会的影響 第7回 意思決定・メディアとインターネットからの影響 第8回 集団 第9回 社会的交換 第10回 援助行動 第11回 リーダーシップ 第12回 役割行動 第13回 幸福感 第14回 前期授業の補足・質疑応答・調査と実験結果のフィードバック 第15回 授業のまとめ・前期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式 アクティブ・ラーニング 毎回の授業内容について、座席の近いペア同士が1分間ずつ説明						
評価基準と評価方法	平常点（自分のためになりそうな授業内容をまとめた小レポート） 30%、定期試験 70%						
履修上の注意	座席指定 教科書は、毎回必携						
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」 土肥伊都子（編著） 保育出版社 2014						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F72010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。						
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特徴を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。						
到達目標	1) 大阪から神戸の特徴を地図に描くことができる【汎用的技能】 2) 阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、述べるができる【知識・理解】 3) 神戸のファッション文化を説明することができる【知識・理解】 4) 阪神間および神戸のライフスタイルの特徴をコミュニケーションでききる。【汎用的技能】						
授業計画	1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 阪神間とは 3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 4. 阪神および神戸のライフスタイル 5. 阪神間に生きた建築家とその作品 6. 阪神間の食文化 7. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 8. 阪神間のファッションデザイナーやグラフィックデザイナーたち 9. 阪神間の芸術家たち（美術家、音楽家、写真家） 10. 神戸の環境とは 11. ホテル文化のさきがけ 12. 神戸の飲料水 13. 神戸のファッション 14. 神戸と化粧品 15. 宝塚歌劇と神戸・阪神間の関係性について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間90分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間90分）						
授業方法	①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。 ②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	レポート70%：阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、授業で学習した方法で研究しまとめる。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 課題30%：阪神間の地図を描く課題とレジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格を失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題は締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	文化人類学						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバ-	752310
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	文化人類学を教養として学ぶことで、自分たちの文化を相対化しよう。						
授業の概要	本講義では、文化人類学の古典的な民族誌を紹介しながら、非西洋社会の親族構造、婚姻体系、集団形成、男女の性役割などについて学んでいく。異文化の他者について学ぶことは、異文化理解に役立つだけでなく、自文化の中で「あたりまえ」と思い込んでいる諸概念を他者の視点からとらえる客観性を養うことでもある。特に授業では、西洋中心主義的な思考に傾倒しがちな私たち自身を批判的に考察していく。これによって「西洋的思考／非西洋的思考」という単純な二項対立図式に陥ることのない思考を身につけていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化人類学の学説史と民族誌の初歩的知識を理解できる【知識・理解】。</li> <li>2. 近代的な西洋中心主義の特徴と限界を簡潔に説明できる【知識・理解】。</li> <li>3. 具体的な文化的差異を題材に自文化の特徴を考察できる【知識・理解】。</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：文化人類学のイメージは？</p> <p>第2回 基礎概念(1) 自文化中心主義と文化相対主義</p> <p>第3回 映像にみる民族誌(1) 南アフリカのスラム</p> <p>第4回 基礎概念(2) 親族構造の変容と進化主義</p> <p>第5回 映像にみる民族誌(2) ネパールの結婚式</p> <p>第6回 民族誌の古典に挑戦(1) 『男性と女性』</p> <p>第7回 映像にみる日本の多様性(1) 在日コリアン</p> <p>第8回 民族誌の古典に挑戦(2) 『タテ社会の人間関係』</p> <p>第9回 映像にみる日本の多様性(2) アイヌ民族</p> <p>第10回 民族誌の古典に挑戦(3) 『想像の共同体』</p> <p>第11回 映像にみる日本の多様性(3) 琉球・沖縄</p> <p>第13回 西洋近代中心主義をどう相対化するか？</p> <p>第12回 オリエンタリズム×ジェンダー＝？</p> <p>第14回 人類学の実践：グループ発表と相互評価</p> <p>第15回 全体のまとめ：レポート返却と成績説明</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業前学習：各回のキーワードに関する具体例を調べて授業の最初に発表する（学習時間2時間）。</li> <li>2. 授業後学習：学んだ概念で具体的な文化事象を分析して授業の最後に発表する（学習時間2時間）。</li> <li>3. 期末レポート：文化事象に関するレポートを作成し、授業で発表と質疑を行う（学習時間10時間）。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前半は教員の講義と視聴覚教材に関するディスカッションを行う。</li> <li>2. 中盤は教員の解説と視聴覚教材についての質疑応答を取り入れる。</li> <li>3. 後半はレポートの作成・発表・質疑を準備する指導を取り入れる。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点40点（毎回のコメントカード、プレゼンテーションなど）</li> <li>2. レポート60点（現代日本における文化事象を批判的に分析する）</li> </ol>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業が理解できなければ遠慮せず積極的に質問すること。</li> <li>2. 私語等で他の学生に迷惑をかけるなら自ら欠席すること。</li> <li>3. 2/3以上の出席に満たなければレポート提出資格を失う。</li> </ol>						
教科書	とくに指定せず必要な資料を配付する。						
参考書	『男性と女性』 マーガレット・ミード著、田中寿美子・加藤秀俊訳、東京創元社、ISBN9784488006631 『タテ社会の人間関係』 中根千枝、講談社、ISBN9784061155053 『想像の共同体』 ベネディクト・アンダーソン著 白石隆・白石さや訳、リブロポート、ISBN9784886115089						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰					科目ナンバ-	Z51140
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。【知識・理解】 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション：本講義で学ぶ内容、講義の進め方、成績評価の方法について、詳細に説明を行う。 2. 阪神淡路大震災とボランティア：ボランティアへの認識が広まるきっかけとなった阪神淡路大震災と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 3. 東日本大震災とボランティア：東日本大震災の実際と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 4. 人はなぜボランティアをするのか：様々な学問分野の手法を用いて、人がなぜボランティアをするのかを分析する。 5. 人はなぜ人を助けるのか：人が人を助ける心理的なメカニズムについて、様々な研究を踏まえながら、社会心理学の観点から考察する。 6. インセンティブとボランティア：インセンティブを与えることが、人の行動にどのような影響を与えるか、またボランティアにどのように結び付くのかを考察する。 7. 富山型デイサービスとボランティア：「富山方式」「共生ケア」として有名になった富山型デイサービスを題材に、先駆者が切り開いてきた福祉のあり方を学ぶ。 8. 新型インフルエンザとボランティア：2009年5月に神戸で新型インフルエンザが流行した際の状況と、ボランティア活動の実態について学ぶ。 9. タイガーマスク運動とボランティア：2010年12月より全国的に広がったタイガーマスク運動を題材に、効果的なボランティアのあり方について考察する。 10. 医療事故とボランティア：様々な医療事故を防ぐために行われているボランティア活動について学び、ボランティア活動のあり方を考える。 11. 小児医療とボランティア：病氣と戦う子どもたちと、子どもたちを支える活動について学び、小児医療のあり方について考える。 12. 終末期医療とボランティア：「その人らしい最期」を支えるボランティアの活動を通して、終末期医療のあり方について考える。 13. 国際ボランティア：国際ボランティア活動の実践事例を紹介するとともに、これからの国際ボランティアのあり方を考察する。 14. スウェーデンとボランティア：スウェーデンの歴史や文化、社会や政治、福祉の現状について学び、スウェーデンが福祉先進国となった理由、我が国が学べることについて考察する。 15. まとめ—これからのボランティアのあり方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、参考書等で下調べをする（90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、参考書等で復習し、理解を深める（90分）						
授業方法	講義：授業テーマに関連する問題を出題し、ペアまたはグループによるディスカッションを行う グループワーク：授業テーマに関連するグループワークを実施し、その結果を踏まえた講義を行う  【実務経験のある教員等による授業】 社会福祉法人の経営者・コンサルタントとしての実務経験を持つ担当教員が、現場における事例の紹介や、実践的なディスカッションを交えて、ボランティアの理論と実践を指導する。						
評価基準と評価方法	授業ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による ワークシートのコメント・質問等については、次回の授業で紹介・解説を行う						
履修上の注意	授業への積極的な参加を期待する						
教科書	授業中に指示						

参考書	「恋するようにボランティアを〔優しき挑戦者たち〕」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を―オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 宰・2013年・聖公会出版)
-----	---

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰					科目ナンバ-	Z51140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。【知識・理解】 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション：本講義で学ぶ内容、講義の進め方、成績評価の方法について、詳細に説明を行う。 2. 阪神淡路大震災とボランティア：ボランティアへの認識が広まるきっかけとなった阪神淡路大震災と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 3. 東日本大震災とボランティア：東日本大震災の実際と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 4. 人はなぜボランティアをするのか：様々な学問分野の手法を用いて、人がなぜボランティアをするのかを分析する。 5. 人はなぜ人を助けるのか：人が人を助ける心理的なメカニズムについて、様々な研究を踏まえながら、社会心理学の観点から考察する。 6. インセンティブとボランティア：インセンティブを与えることが、人の行動にどのような影響を与えるか、またボランティアにどのように結び付くのかを考察する。 7. 富山型デイサービスとボランティア：「富山方式」「共生ケア」として有名になった富山型デイサービスを題材に、先駆者が切り開いてきた福祉のあり方を学ぶ。 8. 新型インフルエンザとボランティア：2009年5月に神戸で新型インフルエンザが流行した際の状況と、ボランティア活動の実態について学ぶ。 9. タイガーマスク運動とボランティア：2010年12月より全国的に広がったタイガーマスク運動を題材に、効果的なボランティアのあり方について考察する。 10. 医療事故とボランティア：様々な医療事故を防ぐために行われているボランティア活動について学び、ボランティア活動のあり方を考える。 11. 小児医療とボランティア：病氣と戦う子どもたちと、子どもたちを支える活動について学び、小児医療のあり方について考える。 12. 終末期医療とボランティア：「その人らしい最期」を支えるボランティアの活動を通して、終末期医療のあり方について考える。 13. 国際ボランティア：国際ボランティア活動の実践事例を紹介するとともに、これからの国際ボランティアのあり方を考察する。 14. スウェーデンとボランティア：スウェーデンの歴史や文化、社会や政治、福祉の現状について学び、スウェーデンが福祉先進国となった理由、我が国が学べることについて考察する。 15. まとめ—これからのボランティアのあり方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、参考書等で下調べをする（90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、参考書等で復習し、理解を深める（90分）						
授業方法	講義：授業テーマに関連する問題を出題し、ペアまたはグループによるディスカッションを行う グループワーク：授業テーマに関連するグループワークを実施し、その結果を踏まえた講義を行う  【実務経験のある教員等による授業】 社会福祉法人の経営者・コンサルタントとしての実務経験を持つ担当教員が、現場における事例の紹介や、実践的なディスカッションを交えて、ボランティアの理論と実践を指導する。						
評価基準と評価方法	授業ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による ワークシートのコメント・質問等については、次回の授業で紹介・解説を行う						
履修上の注意	授業への積極的な参加を期待する						
教科書	授業中に指示						

参考書	「恋するようにボランティアを〔優しき挑戦者たち〕」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を―オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 宰・2013年・聖公会出版)
-----	---

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	マーケティング論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U12090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。誰もが知っているメーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、具体的なケースを取り上げ、マーケティングの理論と組み合わせながらマーケティングの面白さ・難しさについて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①マーケティングの仕組みについて興味・関心を高めることができる。（知識・理解） ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。（知識・理解） ③商品開発の裏側を読み解き、自らの企画・開発力を実践することができる。（汎用的技能） ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。（態度・志向性） ⑤商品開発の難しさ・面白さを理解することができる。						
授業計画	第1回 マーケティング発想の経営 第2回 マーケティングのパラダイム革新 第3回 マーケティングの基本概念 第4回 戦略的マーケティング 第5回 製品のマネジメント 第6回 価格のマネジメント 第7回 広告のマネジメント（WEB他） 第8回 広告のマネジメント（メディア他） 第9回 チャンネル戦略 第10回 サプライチェーンのマネジメント 第11回 営業のマネジメント 第12回 顧客関係のマネジメント（ゲスト・スピーカーを予定） 第13回 顧客理解のマネジメント 第14回 ブランド構築のマネジメントと組織の在り方 第15回 マーケティングにおける社会性と倫理性						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】流行のものや話題のものを常に把握し、資料を収集しながらまとめる。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください）（学習時間：2時間） 【授業後】授業の復習と共に新聞・雑誌は必ずよんでおくこと。授業中に指示された課題についてレポートを作成（学習時間：2時間）						
授業方法	講義 ・課題解決型学修 ・反転授業 ・ディスカッション、ディベートを取り入れた授業を実践する。 【実務経験のある教員等による授業】 マーケティング&リサーチ事業の代表として食品マーケティングを中心とする商品開発を行った経験を生かし具体的な事例を提供しつつ授業を進め製品開発についての知識を教える。						
評価基準と評価方法	・中間テスト（20%） ・授業内での提出物（レポートも含む）（20%） ・期末試験（60%）よって総合的に判断する。						
履修上の注意	①消費者に指示される商品の特徴とは何か？常に考えておいてください。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ③新聞は必読						
教科書	石井淳蔵・廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社、2020年						
参考書	随時紹介する。						



科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ヨーロッパ史						
担当教員	尾崎 秀夫					科目ナンバ-	752300
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ローマ皇帝とキリスト教						
授業の概要	ローマ皇帝の対キリスト教政策を検討する。通説ではローマ皇帝はネロからディオクレティアヌスに至るまでキリスト教徒を厳しく迫害したとされる。しかし、近年の研究では、迫害を命じた皇帝はごく少数であり、皇帝による迫害が行われた期間も非常に短かったことが明らかとなっている。では、彼らはいかなるキリスト教政策を採ったのか。ローマ帝国におけるキリスト教迫害とはいかなるものであったのか。ローマ帝国においてキリスト教徒はどのような状況に置かれていたのか。本講義においてはこのような問題を検討する。						
到達目標	ローマ帝国におけるキリスト教迫害について述べることができる。(知識・理解の観点) 歴史を多様な観点から考えることができる。(汎用的技能の観点) 歴史について史料に基づいて議論することができる。(態度・志向性の観点)						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 ローマの歴史(イタリア半島統一まで) 第3回 ローマの歴史(帝国の成立まで) 第4回 ユダヤ人の歴史(イエスの誕生まで) 第5回 ネロの迫害(ネロの生涯と史料) 第6回 ネロの迫害(タキトゥス、スエトニウスを中心に検討) 第7回 ドミティアヌスの迫害 第8回 小プリニウスとトラヤヌスの勅令 第9回 1～2世紀のローマ帝国におけるキリスト教迫害の実態 第10回 軍人皇帝時代 第11回 デキウス帝とウァレリアヌス帝の迫害、ガリエヌス帝の平和令 第12回 デオクレティアヌス帝の迫害 第13回 コンスタンティヌス帝による公認 第14回 キリスト教の国教化 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	高校の世界史の教科書を見直しておくこと。ローマ帝国の歴史と初期キリスト教史についての文献を読んでおくこと(例えば、弓削達『ローマ帝国とキリスト教』)。講義に出席する前に前回のノートを見直すこと。(学修時間:2時間)						
授業方法	講義。パワー・ポイントを使って画像などを提示しながら進める。質問を歓迎する。						
評価基準と評価方法	試験と平常点を総合して評価する。						
履修上の注意	原則として、10回以上の出席がないと受験資格を認めない。遅刻2回で1回の欠席扱いとする。						
教科書	とくに定めない。						
参考書	弓削達『ローマ帝国とキリスト教』、1989年、河出書房新社。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	リスクマネジメント論						
担当教員	吉田 耕平					科目ナンバ-	752370
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	リスクとリスクマネジメントの考え方を理解すること						
授業の概要	「備えあれば憂いなし」「君子危うきに近づくず」これらの格言は、リスク（人間の生命・財産を危険にさらす可能性）に対する対処方法を我々に自覚させる。実際、我々の生活や企業・団体の活動の多くはリスクにさらされている。また、そのリスクの種類は多様化し、発生のメカニズムは複雑化し、その影響は大きくなってきている。一方、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の諺のように、大きなリターンは大きなリスクをとることによってしか得られない場合もある。このように、リスクを適切に認知、受容、分析、評価することは現代社会に生きる我々にとって非常に重要なこととなっている。この授業では、リスクマネジメントに関する基礎的な知識を学び、受講者が生活の中でリスクマネジメントを身につけることを目指す。						
到達目標	1. リスクとリスクマネジメントの基本的な考え方について、説明できる。（知識・理解） 2. 現代のリスクマネジメントとリスクコミュニケーションのあり方について、日常生活のなかで意識できる。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 リスクとは何か？：①リスクと安全 第3回 リスクとは何か？：②リスクと危険 第4回 「リスク社会」とはどのような社会か？ 第5回 リスクの個人的認知と社会的評価 第6回 リスクマネジメントの考え方 第7回 リスクコミュニケーションの考え方 第8回 さまざまなリスク：①自然災害とリスク 第9回 さまざまなリスク：②科学技術とリスク 第10回 さまざまなリスク：③健康とリスク 第11回 さまざまなリスク：④経済活動とリスク 第12回 さまざまなリスク：⑤組織とリスク 第13回 リスクマネジメントの要点：①信頼とリスク 第14回 リスクマネジメントの要点：②リスクリテラシーとリスクガバナンス 第15回 授業のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：前回の授業ノート、配付資料の内容を見返しておく。（1時間） 授業後学習：授業内で提示したテーマについて、わからなかった箇所・より詳しく知りたいと思った箇所についてスライド、配付資料で提示した参考文献で調べておくこと。（2時間）						
授業方法	講義形式で行う。スライドと配付資料を利用する。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物30%：各回のアクションペーパーおよび小テストによる。到達目標1と2に関する到達度を確認する。 期末試験70%：授業内容に関する最終的な理解度を測る。到達目標1と2に関する到達度を確認する。記述式の出題を含むため、十分に準備して臨むこと。						
履修上の注意	授業への主体的な参加を求める。授業中はマナーを守って受講すること。						
教科書	使用しない。適宜、配付資料を利用する。						
参考書	随時、参考文献を紹介する。専門書としては、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・『リスクマネジメント総論』（亀井利明）</li> <li>・『防災学原論』（B. ワイズナー）</li> </ul> 初回の授業では、一般向けの文献も紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・『攻めの経営を可能にする 本当のリスク管理をするための本』（吉成 英紀）</li> <li>・『エンジニアのためのリスクマネジメント入門』（田邊 一盛）</li> <li>・『新版安全な介護ポジティブ・リスクマネジメント』（山田 滋 他）</li> <li>・『裁判例で学ぶ 学校のリスクマネジメント ハンドブック』（坂田 仰）</li> </ul>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	臨床心理学概論A／臨床心理学A						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P1201A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学とは何かについて、代表的な理論を学ぶことを通して、その歴史的や特徴について考える。						
授業の概要	様々な臨床心理学の代表的な理論を学ぶとともに、臨床心理学の成り立ちについて理解する。そして具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学という学問の成り立ちや、特徴、基本的な概念について説明できる。【知識・理解】</li> <li>2. 代表的な臨床心理学の基礎理論を挙げ、それらについて説明できる。【知識・理解】</li> <li>3. 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。【態度・志向性】【汎用的技能】</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション－臨床心理学とは何か  第2回：臨床心理学の基礎理論①：精神分析  第3回：臨床心理学の基礎理論②：行動療法  第4回：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法  第5回：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学  第6回：臨床心理学の対象①：神経症・精神病  第7回：臨床心理学の対象②：人格障害  第8回：臨床心理学の対象③：発達障害  第9回：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期  第10回：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期  第11回：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期  第12回：臨床心理学的アセスメント  第13回：臨床心理行為と倫理  第14回：まとめと試験  第15回：試験解題</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：第1回は「臨床心理学」、第2回は「精神分析」、など）（学習時間：2時間）。</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること。（学習時間2時間）</p>						
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。						
評価基準と評価方法	<p>授業への参加・貢献度（30%）：到達目標3の達成度確認  期末試験（70%）：到達目標1, 2, 3の達成度確認  ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。  感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。  期末試験に関しては第15回に解答例を配布するとともに解説を行う。</p>						
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する						
参考書	下山晴彦（編）（2009）『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房。 ISBN：978-4623054350						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	臨床心理学概論B／臨床心理学B						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P1201B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。						
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理学的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について学習する。						
到達目標	(1) 各発達段階の心理学的特徴について説明することができる。【知識・理解】 (2) 各発達段階に生じやすい心理学的問題について具体的に説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：オリエンテーション —臨床心理学の対象 第2回：乳幼児期・児童期の心理学的特徴 第3回：乳幼児期・児童期に生じやすい心理学的問題①：虐待 第4回：乳幼児期・児童期に生じやすい心理学的問題②：いじめ 第5回：思春期・青年期の心理学的特徴 第6回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題①：摂食障害 第7回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題②：対人恐怖 第8回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題③：ひきこもり 第9回：成人期・老年期の心理学的特徴 第10回：成人期・老年期に生じやすい心理学的問題①：自殺 第11回：成人期・老年期に生じやすい心理学的問題②：認知症 第12回：授業のまとめと試験 第13回：グループ発表とディスカッション① 第14回：グループ発表とディスカッション② 第15回：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で取り上げるテーマについて事前に調べる。また、授業で扱っていないテーマで、かつ各自が関心を持つ心理学的問題について調べ、発表資料を作成する（学習時間：2時間）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間：2時間）。						
授業方法	主に講義形式で授業を行うが、小グループによる発表とディスカッションを行う授業回もある。						
評価基準と評価方法	<b>評価基準と評価方法</b> 試験（60%）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表（20%）：発表内容により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 平常点（20%）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。  <b>課題に対するフィードバックの方法</b> リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。						
履修上の注意	1. 講義だけでなく、小グループによる発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						